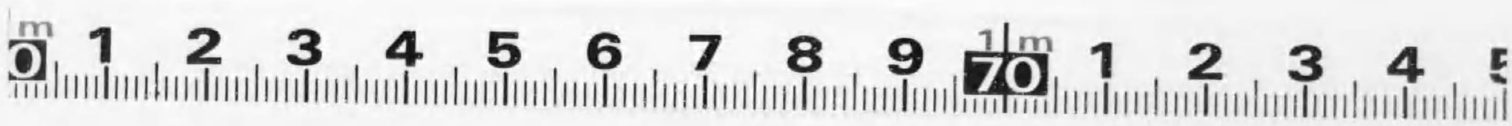
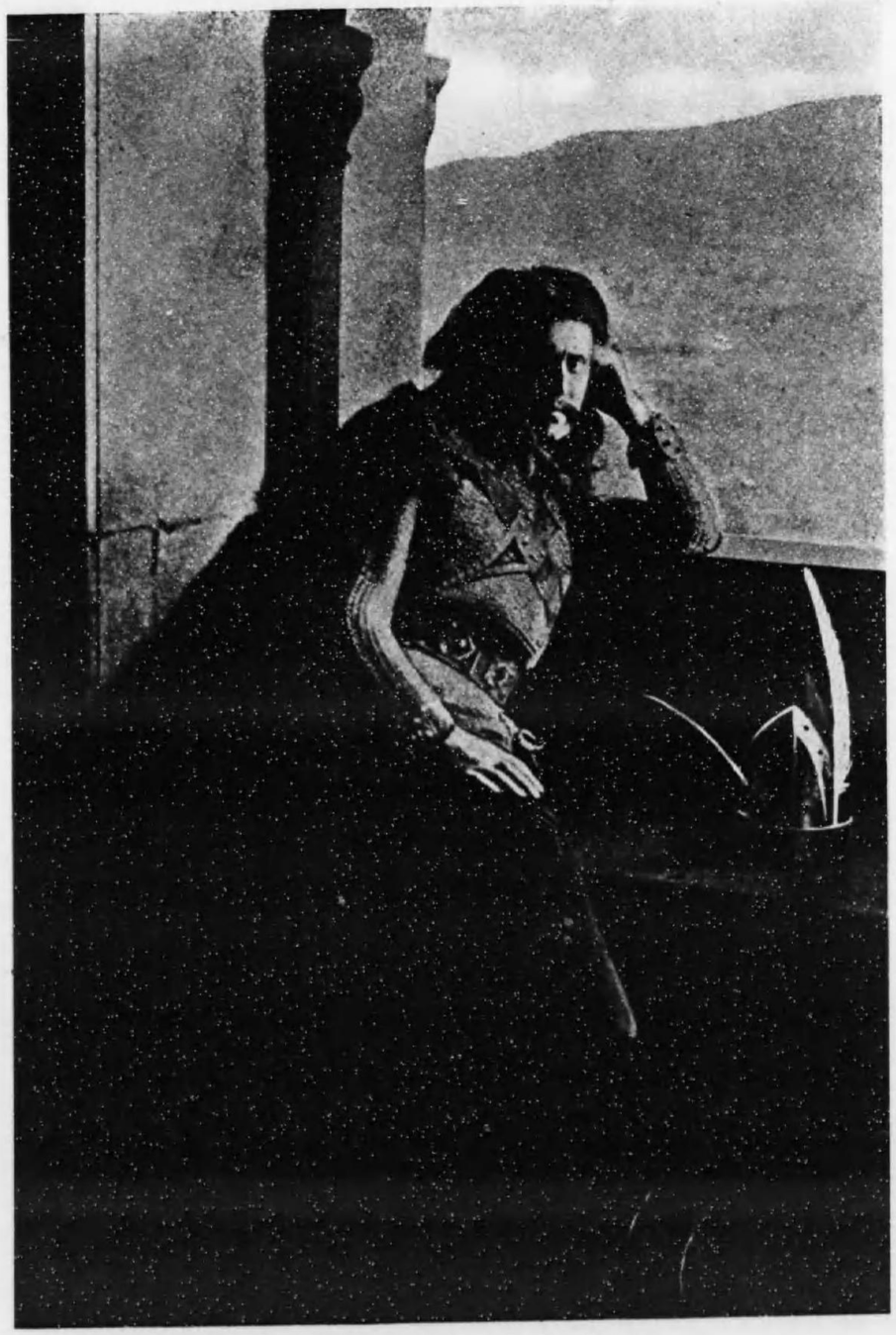
522
10
176





Sir Herbert Tree in "Macbeth"
At His Majesty's Theatre.

マクベス

坪内逍遥譯

大正
13. 3. 29
購求

522-176

緒言

此作に關する記錄は、星占家ドクター・フォーマンといふ者の手記に係る觀劇錄中に見えたる筋書を初めとす、而してそは一六一〇年四月二日の記事なるが、其時始めて演ぜられたりとも見えざれば、此作の創作はそれよりも以前なりしこと明かなり。また、此作の始めて版となりしは、例の一六二三年の第一二つ折本なるが、不完全なる謄寫本を底本となしたるらしく、誤謬も錯脱も甚

だ多く、現に行はるゝ本文を得しまでには、多くの年月と多くの考査とを經たりき。今日にては、其作意、詞致及び内容中に含まれたる種々の引事等より推して、此作を一六〇四年より同六年までの間に創作せられたるものとするが、沙翁學者間の輿論なり。明かに成功せし作らしきに、作者が生存中には一回も公刊せられざりしは不思議なるが如くなれど、或は營業上の都合などありて、作者が故と出版を禁止したりしにやとも思はる。「ハムレット」其他の名作が、彼の四つ折本形にて、速記のまゝにて、連りに出版せられしは、いづれも作者の許

諾を經ざりしものにて、誤脱多く、且つや斯かる刊行は、各座互ひに其脚本を專有して相競爭せし頃には、興行上其他に、多少の不利益を釀しゝ擧たりし事明かなればなり。

沙翁は、此作の材料を、他の歴史物の場合に於ける如く、主としてホリンシェッドの「編年史」より得たるなるが、該「編年史」中に見えたるマクベスに關する事蹟は、一五二六年に佛蘭西バリーにて出版せられ、同四一年に蘇國語に翻譯せられたりしヘクター・ボイスの著「蘇國史」の第十二編に

據りたるものなりき、而して該ボイス自らの出典はフォーダンの著なりと云ふ。本來ホリンシェッドの「編年史」といふは、眞僞相半して、たかゞ我「源平盛衰記」程度の野史なれば、マクベスに關する記事も嚴格なる正史ならざること勿論なり。此考證は、ファーネスの集注にも、クラレンドン版の注釋書にも詳しく見えたり。要するに、沙翁は、專らホリンシェッドに據りて筋を立てたれども、例の如く事實の取捨を自在にして、少しも拘泥することなく、時代違ひの事蹟をも、都合によりては、混合して脚色を複雜ならしめ、以て劇の目的に便ならしめたり。すなはちマクベス

がダンカン王を弑せし事蹟と其幾代か前にドンワルドといふ貴族が其妻某に敎唆せられてダッフ王といふを其居城にて弑せし事蹟とは、種々の點に於て相似たるが、沙翁は此二件を一にして筋を立てたり。

ホリンシェッドの本文によれば、ダッフ王は、紀元後九六八年にスコットランドの王位に卽きて、同九七二年に弑せられたり。其弟ケンネス代りて王となりたりしが、其實子に位を讓らんの野心より、窃かに甥のマルコム（ダッフ王の嗣）を毒殺し、其子マルコム二世をして位を承けしめたり。ケンネスは、此罪惡の故に、晩年は良心の苛責に惱み、夜毎に安眠を

破る不思議の呼び聲を聞き、苦悶の間に世を去りぬ。マルコムの死後、其孫ダンカン（マルコムの女ビヤトリスの男）代りて位を繼げり。マルコムの他の一女ドオダは、グラミスの領主シネルに嫁して、マクベスを生めり。ダンカンは性溫和にして仁慈の心深かりしが、マクベスは勇敢にして甚だ殘忍なりき。王が卽位の後七年に、マクドンワルドの叛あり、西方諸島の民之を援け、勢ひ侮るべからざるものありしかば、王、マクベスをして之を討伐せしむ。マクドンワルド遂に勢ひ窮りて、其妻子を殺して自刃せり。マクベス、其首を斬りて王に送り、首無き屍を刑臺に曝し物とせり。

つゞいてデーン人の王スヱノー（那威王）の來寇あり。ダンカン王、マクベスとバンコーとを將として前軍を率ゐしめ、自らも本陣の將となりて、之を邀へ擊てり。されど其勝敗は容易に決せざりき。バンコー、マクベスの兩將が、敵軍の應援の爲にとて、將に上陸せんとする英國王カニュートの海兵を擊破し、夥しき償金を收めて、敵の死屍をコルム島に埋葬することを許せしは、此戰爭の末年の事なり。かくて後、デンマルクとスコットランドとの間に和議成り、バンコー、マクベスの兩將は、其凱旋の途次、兵士をも從へず、只二人のみにて、フォレスなる王の陣營に赴かんとて、互ひに

戯れて物語りしつゝ、林野の間を過ぎ行きけるが、ふと奇異なる服裝せる、此世の者とも思はれざる三人の怪しき女共に逢へり。驚きて之を見詰むる程に、其眞先なるが曰く「グラミス（セーン）の領主マクベスを祝す」と。第二の女は曰く「コーダー（セーン）の領主マクベスを祝す」と。さて第三の女は曰く「やがてスコットランドの王たるべきマクベスを祝す」と。其時バンコーは、其女らに向ひて「何故汝らは我同僚にのみ祝賀の辭を述べて、予には何等の挨拶をもせざるぞ」と問へり。之に對して女らの答ふる所は、此劇に見えたると異なることなく、「君は自らは王とならざるも、其子孫

代々スコットランドの王たるべし」といひ、やがて何處（いづこ）ともなく姿を消しぬ。二將とも最初は之を信ぜずして、互ひに「足下は王よ」、「足下は王の父祖よ」などゝ戯れ、之を一笑に附したりしが、後に至り、件の女らは所謂妖巫（ウヰツチ）即ち運命を司る魔女にして、未來を豫言するの通力ある者と知られぬ。何となれば、此時コーダーの領主は罪を王に得て死刑に處せられ、其所領、官職等は悉くマクベスの有に歸せし故なり。かゝりしかばバンコーはマクベスに戯れて「二女の言ひし事は適中せり、只第三女の豫言を實にすることのみが殘れり」といへり。マクベスも亦た深く此

事に心を傾けゐたり、されど前の二つを天祐によりて得たる如く、第三のをも同じく天祐によりて得んの心なりしが、王が其王子マルコムを公然「カンバランドの公子」と名づけ、王儲と宣言するに及びて、失望し、はじめて逆意を抱けり。加ふるに其妻某野心深くして、王妃とならんの慾望燃ゆるが如く、頻に夫を教唆しければ、彌心を決し、バンコーをはじめ腹心の徒幾人かと謀じ合せて、遂にインヴーネスの地にて王を弑せり。或はポットゴシュアンといふ處にて弑せりとも謂ふ。かくして彼れは、其同志の徒に推されて王位に卽きぬ。時に一〇四八年なり

き。

ダンカンの二王子、マルコム・カムモーアとドナルベインとは、マクベスの毒手を避けん爲に、前者は英國王エドワードの許へ、後者はアイルランドへ逃れたり。是に於てマクベスは、最早國内に恐るべき者もなかりければ、鋭意ダンカンの優柔なる政策が釀し出だしたりし不取締の諸弊を除去すると に力め、横邪を罰し、枉屈を解き、權門豪族に對してすら、嚴正なる果斷を以て臨みければ、上下共に懾れ服しぬ。然るに、卽位後十年を經たる頃より、マクベスが性行また一變せり。彼れは妖巫らの豫言を信ずるの餘り、バンコー

を忌み恐れ、彼れを亡き者にせざれば、心を安んじがたしとなし、刺客に命じて、或夜バンコーと其子フリヤンスとを宮中の夜宴に招き置きながら、其來る途中に待伏させて殺さしめき。此時フリヤンスは、辛くも免れて、ウェールスに走り、後のスコットランド諸王の祖となりぬ。これより後マクベスは、ますゝ殘忍苛酷となり、聊かの嫌疑の故に貴族等を誅戮し、其一族を屠殺し、其所領を沒收することゝなり。かくして罪惡を重ぬるにつれて、いよゝ己れの身の不安を覺え、萬一の備へにとて、ダンシネーンといふ丘の上に、新たに一の堅城を築くことゝし、諸領主に嚴

命して其賦役を課し、且つ自ら來りて人夫を督し、親しく築城の事に當らしめたり。ファイフの領主マクダッフの如きも、賦役を課せられたる一人なりしが、平生深くマクベスに猜疑せられをるを知れる故に、わざと避けて、來り督することをなさゞりしかば、マクベス大いに憤りけるが、流石にマクダッフの威力の大いなるを憚りて、直ちに罰せんともせざりき。彼れは嘗て妖巫らより「マクダッフに警戒せよ」といふ豫言を聽きたり、是れ其深くマクダッフを猜忌する所以なりき。されど又其同じ妖巫らより「女の生み落せる男はマクベスに害を加ふる能はず」とも告

げられたりしかば、自ら恃む心漸く増し、貴族らに對する暴横日に募り、マクダッフの身の危さも遂に旦夕に逼りければ、マクダッフは密かに本國を逃れ出でゝ、英國なるマルコムの許に赴きぬ、王子を説きて兵を起させ、父王の位を復せしめんと欲せしなり。

マクベス早くも此事を探り知りて憤激し、自ら一隊をひきゐて不意にファイフ城に逼り、直ちに城内に入りてマクダッフの妻子及び眷族を虐殺し、其所領、財寶を沒收せり。マルコム旅中にして此事を聞知し、悲憤遣る方なく、其マルコムに逢ふや、詳かにマクベスが暴虐の次第を語りて、速

かに兵を進めて、國民が塗炭の苦を救はんことを勸説しけるが、マルコムはじめはマクダッフが心事を疑ひて、只其不幸に同情するのみにて、事を擧げんとは言はず、尙强ひらるゝに及びては（此劇に見えたる如く）自己のあらぬ惡德を數へ立てゝ、己れの國君たるに適せざる所以を辨じぬ。（此あたりは、沙翁は幾ど其儘にホリンシェッドの辭句をさへも蹈襲せりといはんも可なり。）されど、やがてマクダッフの眞情の明かに知らるゝに及びては、協心同力を誓ひ、且つ英王エドワードの好意によりて、ノオサンバランド伯、老シワードが率ゆる一萬人の援兵を得たり。かく

てマルコムの來ると聞くや、スコットランドの貴族らは二派に分れ、一方はマルコムに心を寄せ、一方は尙マクベスに屬し、マルコムの未だ到らざるに先だつて、小ぜりあひをはじめたり。マクベスは敵の與黨の次第に加はるを知り、又英軍の内地に入れるを聞きて、己れはダンシネーンの堅城に立籠れり、然るは「バーナムの森のダンシネーンに寄するまでは、決して敗るゝことあらず」といふ妖巫らの豫言ありし故なり。此豫言は、マルコムの命によりて、兵士各〻バーナムの森の樹枝を斫りて、楯の代りに翳しつゝ進み來るに及びて破れたり。マクベスは、之が爲に、先づ一たび失望せ

しが、次に戰場にてマクダッフに邂逅し「女の生み落せる男は予に勝つ能はず」と高言せし時、マクダッフが笑つて「予は生み落されたるにあらず、母の肚より割取られたるなり」といふに及びて、二たび失望せり。マクダッフは激鬪して、遂にマクベスを斃し、其首を竿頭に貫きてマルコムの本陣に持行けり。此あたりの顚末は、悉く此作中に見えたるに同じ。マクベス、王たりしこと十七年とあり。

ホリンシェッドに見えたるダンカン以後の史實は以上に盡きたるが、其中マクベス夫人に關する事は、上に引ける抽象

的の叙事只二行程見えたるのみ。又弑逆前後の事情なども、ダンカン紀の中には、以上に引きたる外には何もあらず。すなはち、(已に前にもいひたるが)、マクベス夫人及び弑逆に關する材料は、明かにダッフ王の紀より出でたり。同王の紀中には、一妖巫が蠟を以て人型を製りて王を呪咀し、それが爲に王の病重るなどいふ事もあり、又フォレス城の領主ドンワルドが逆心を抱き、王を其城に招きて、其妻と共に懇に饗應することあり、されど流石に心咎めて大逆を行ふに躊躇せしを、其妻に敎唆せられて、四人の家臣をして深夜に王を弑せしめ、其死骸を運び

出さしめ、罪を王の侍臣に歸して之を手討にすることあり、又其珍事後に天變地妖連りに起ることなどもあり。されど此等の記事とても、要するに、普通の編筆史體に、只あらましを叙せるに過ぎずして、其妻の名もなく、ドンワルドが逡巡踟躕の模樣なども、只抽象的に一二行略叙したるのみなれば、沙翁の之に負ふ所は、纔かにヒントたるに止まれること論なし。

ファーネスの考證によれば、以上紹介せるホリンシェッドの叙事は、正史の事蹟とは甚しく齟齬せるものなり。／スコットラン

ドの正史たるチャルマースの「カレドニヤ史」に據るときは、先づ彼のマクドンワルドが西方諸島に據りて叛を謀りたりといふ事其事も無根なり。且つダンカンの時に那威王スヱノーが來寇せしこともなし。又マクベスはシネルの子にはあらで、ロッスの領主フィンレーといふ者の子にして、グラミスの領主にはあらず。フィンレーは嘗てダンカンの祖父マルコム二世と戰つて戰場にて殺されたり。又マクベス夫人の祖父も、其同じマルコム二世の爲に位を簒はれ、且つ殺されたり。されば、ダンカンは、マクベスの爲にも、夫人の爲にも、怨敵の血統たりき。マクベス夫人の名は、正史に見えたる所

によれば、グリュオック夫人（*Lady Gruoch*）なり、而して其初緣の夫はモーレー（*Moray*）の領主（セーン）ギルコンゲイン（*Gilcomgain*）といひて、王族に次ぐ名門なりしが、マルコム二世に憎まれて、其城を攻圍せられ、其族五十人と共に城に籠りて燒死せしが、其時夫人だけは、其幼兒リュラック（*Lulach*）と共に落去し、マクベスの所領地ロック州に逃れ、遂にマクベスに嫁せり。かくしてマクベスは、リュラックの幼き間、モーレーの領主をも兼ねたり。夫人の弟某も亦たマルコムの爲に誅せられたりと云ふ。マクドンワルドの謀叛に相當するはケイスネスの領主トオフィンの叛亂なり。ダンカンは之を討せんとして出陣

し、其途上エルギン附近のボッスゴウァンにて弑せられたり。（ボッスゴウァンはマクベスの所領地にして、前に擧げたるボットゴシュアンと同處なるが如し）。後にマクベスが老シワード及び其子オスバートが率ゐたるノオサンバランド兵と戰つて敗れ、北方に逃れ、其後一年を經てマクダッフに殺されしことは事實なり。ロカバーの領主バンコー及び其子フリヤンスの事は、正史には所見なし。フリヤンスがスコットランド後代の諸王の祖といふことも、ホリンシェッドの附會なるが如し。

マクベス夫人の事は、以上の零碎なる事實の外には、何も見えず。其夢中歩行、マクベスが見たる短劍の幻影、バンコ

ーが亡靈出現の事等に至りては、ホリンシェッドにも正史にも、似寄りたる事だになし。いづれも沙翁の詩的空想より成れりしものと見えたり。尙マクベスに關しては、別にウィンタウンの「蘇國編年史（クロニクル）」ありて、正史ともホリンシェッドとも多少相違せる說を傳へ、又ウォルター・スコットの「蘇國史」にも、更に幾らか異なれる一說を傳へたりとて、それが考査を試みたる學者もあれど、それらは、いづれも沙翁の作とは何等直接の關係もなきものなれば、今は之を引くに及ばず。

次に、此作に附帶せる一問題として、一言せざるべからざるは、此作は純然たる沙翁自身の作なりや、または何者かの攙入を經たる作なりや否やといふことなり。沙翁と同時代の作者にして其後輩たりしトマス・ミッドルトンの作「妖巫（ウイツチ）」の內容と「マクベス」中の妖巫に關する部分とを對照するに、類似せる點の少なからざるのみならず、妖巫の歌ふ唄の如きは、悉く「妖巫」中のものなり。論者或は、「マクベス」中に見えたる妖巫の、或部分は頗る崇嚴に、而して或部分は甚だ野卑に寫されて、前後相矛盾せる趣ありと做し、然るは此作の沙翁一人の手に成らず

して、何者かとの合作に成れる證なりと做し、其合作者をミッドルトンならんと推論せり。又、或論者は沙翁がミッドルトンの「妖巫」を利用せるならんといひ、或論者はミッドルトンが沙翁の「マクベス」より思ひ附きて「妖巫」を作せるならんといへり。二作共に創作（かきおろし）の年月明かならざれば、いづれを先とも決するに由なく、要するに、共に臆說たるに過ぎず。さもあれ、其壯年の頃ならば知らず、已に「ハムレット」を卒業し、其技も圓熟し、其名聲も隆々たりし頃の沙翁が、其後輩の新作を剽竊するなどいふことはあるまじき事なれば、假令ミッドルトンの作を本源なりと

するも、それを「マクベス」中に攙入したるは沙翁死後の沙汰なるべし。

「マクベス」は、不幸にして彼の甚だ不完全なる第一フォリオ本のみによりて今日に傳へられたれば、其本文に關する疑ひは、尙他にもあり。例へば、此作の、悲劇としては、例外に簡單なることも疑點の一なり。上演の都合にて、場面の幾分かが省かれたりしを、其儘底本として刊行せしにはあらずやと疑はれざるにもあらず。さすれば、トガキ又は臺辭などには、同じく俳優の都合上より、原作にはなかりしものを攙入し、それを其儘存しおける

などいふこともありげなり。但しそれらは此作の主要なる部分には關せざることなれば、かゝる臆說あるが爲に、此作の價値を疑はんは無用の事なり。

此作は、「ハムレット」、「オセロー」と竝んで、沙翁が大悲劇中の最も人氣ある作なるが、作者存生中にも十分成功せし劇たることは、彼のドクター・フォーマンの手記などによりても、ほゞ推測するを得。さて、例の內亂時代を經、王政復舊の世となりては、此作音樂入のメロドラマに改作せられて、歌唱と舞踊とを豐富に加へたる見せ物式のもの

となり、頗る俗の喝采を博せり。其以前には、妖巫の歌ふ唄二くさりと簡單なる輪踊一二回とありしのみなりき。例のペピスの日記に、一六六六年十二月以來屢〻「マクベス」を觀たる記事ありて、之を激賞せるが、そはいづれも音樂入のものなりし如く、變化に富みて、耳をも目をも娯ましむといふ意味の評語見えたり。一六七三年に至りて、例の沙翁の落胤と自稱しをりし、時の桂冠詩人ダヴナント、更に此作をほしいまゝに改作して上演せり。そは前の見せ物式へ、更に一層多くオペラ要素を加味したるものにて、さん〳〵の改惡なり。其全文ファーネスの「集

注」中に見えたり。脚色はやゝ複雜となりて、マクダッフ夫婦の役は好くなりたれど、要するに蛇足多く、詞句も、或は書改められ、或は書き加へられたれど、いづれも淺俗なり。バンコーの亡靈を頻に切穴より出沒せさせ、或は妖巫らを中乘にて飛行せしむるなど、專ら裝置(しかけ)によりて、俗の目を駭すことを主とせしものゝ如し。ダヴナント以後一百年間は、常に此改惡脚本を用ひたりしなり。沙翁の原作を復活せしむることゝなりしは、一七四四年一月、彼の名優ガーリック(即ちドリューリ・レーン座の上演)以後なり。但しガーリックだにも、其マクベスの服裝は當時の英國

陸軍大將の制服にて、赤外套を被、銀モールを附け、髪粉を施して、後部をリボンにて締べる赤毛の假髪を載けりき。又盛んに音樂を用ひ、且つマクダッフに殺さるゝ時、原作には無き感慨の長白を述べて、大詰の幕を切りたり。されば マクベスが スコットランド古代の武將らしき戎服を被て現れし最初は、彼のシャイロック改革の卒先者たりしマックリンにして、一七七二年の事なり。是れ同人が八十二歳の時にして、マクベスは其初役なりきと云ふ。されど妖巫の使ひかたまでも、沙翁の原作意通りとなりしは、エドマンド・キーン（一八一四年）を始めとし、服裝全體が活

歴式となりしは、ケンブル以後なりと云ふ。

英のマクベス役者として中興の名ありしはマクリデーなるが、其後には ホエルプス（一八四七年）あり、米國のブースあり。アーギング（一八八八年）は一半は好評にして、一半は不評の氣味なりき。最近に評判ありしは、英國にてはッリー、米國にてはロバート・マンテルなるべし。

マクベス夫人の役の劇史上に有名なるはブリッチャード夫人、シッドンス夫人、カシュマン夫人なり。エレン・テリーは、アーギングのマクベスに此役を勤めしが、不評なりき。

大正五年二月初旬

譯者識

登場人名

ダンカン、スコットランド王。

マルコム
ドナルベイン　其王子。

マクベス
バンコー　王軍の將。

マクダッフ

レノックス
ロス
メンテイス
アンガス
ケイスネス
} スコットランドの貴族。
フリヤンス、バンコーの一子。
シワード、ノオサンバランド伯、英軍の將。
少シワード、其子。
シートン、マクベスに仕ふる一士官。
少年、マクダッフの子。
英國王の侍醫。

スコットランドの侍醫。
一武官。
一門衛。
一老人。

マクベス夫人。
マクダッフ夫人。
一侍女、マクベス夫人に仕ふる女。

ヒカト、女魔神。
三妖巫。

幻像。

貴族、紳士、士官、兵士、刺客、侍者役及び使者役。

場所。スコットランド及びイングランド

マクベス

第一幕

第一場　荒れ地

雷鳴電光。三人の妖巫出で來る。

第一妖　一人又一しよになるのは、何時にしようか？　鳴る時か、光る時か、降る時かに。

第二妖　あの騒動が終んで、勝敗の決つた時分に。

第三妖　そりや日没前だらうよ。

第一妖　場處は何處で？

第二妖　例の岡さ。

第三妖　彼處でマクベスを待たうよ。

此時あちこちにて妖巫の使役する魔物の鳴く聲聞ゆる。

第一妖　今往かァな、灰毛猫！

第二妖　蟇めが呼ばつてるよ。

第一妖　（奥に向ひて）あいよ。

三人手に手を取りあひて、聲を揃へて、踊りつゝ歌ふ。

一同　清潔は不潔、不潔は清潔。
霧や雰やの中をば翔ばう。

三人ともに入る。

第二場　フォレス附近の陣營

奥にて警報（太鼓又は喇叭）。スコットランド王ダンカン、其第一王子マルコム、第二王子ドナルベイン、貴族レノックス及び侍者多勢と共に出で來り、他方より出で來れる手負の一武官に逢ふ。

ダンカ　あの血だらけの男は何者ぢや？　あの樣子では、定めし謀叛人共の最近の情況を承知してをるであらう。

マルコ　彼れは、先だつて私が捕虜にならうとしました際に、勇敢な働きをして、救つてくれました武官です。……や、御機嫌よう！　君の目擊して來た戰場の

模様を、王へお話しなさい。

武官　曖昧の體でございました。　互ひに泳ぎ抜かうとする水練者が、水中で引組んで　双方共に疲れ果てたといふ鹽梅式に。　あの殘忍な、　好惡根性が豊かなので、謀叛人には適當なマクドンワルドは、西方群島から輕裝兵や重裝兵を夥多驅集めましたので、一時は例の運命めが、奴の非道の企に白い齒を見せて、賊軍の娼婦に成り了すかとも見えました。　ところが名にし負ふ猛將軍のマクベスどのは、運命なぞには目もくれず、武勇其者の秘藏子でもあるやうに、血煙の立つ大太刀を揮閃かして、驀地に敵中に割つて入り、とう〳〵敵將に邂逅はれました以上、いッかな告別辭を言はれゝばこそ、臍から頸へ掛けてさッと斫割いて、其首をば胸壁に懸けられました。

ダンカ　あゝ勇敢な仁ぢや！　偉い男ぢや！

武官　ところが、太陽のさし昇る東の方から、怖しい霹靂や船を摧く大あらしの起りまする如く、身方が慰安の源泉とも思つてゐました方角から、思ひがけない不安が湧き出しました。　もし、陛下、お聽きなされませ。　さても官軍が、正義を補くるに武勇を以てして、逃足の輕い輕裝兵どもをさん〳〵に打敗りました其途端に、豫て隙を窺ひをりましたノオウェー王が、研ぎすました武器と新手の兵とを以て、俄に打つてかゝりました。

ダンカ　身方の兩將、マクベス、バンコーも、それには幾らか狼狽へたか？

武官　さやうでございます、鷲が小雀に、獅子が子兎に襲はれましたかのやうに。　實際、兩將軍は、宛然二重に彈裝をした大砲か何ぞのやうに、二層倍の勢ひで敵に當られました。　血の海で浴みでもせられる積りか、でなくば第二の髑髏が丘でも築かれるのかと存じまする程の凄じい働き……が、息切れがしまして、傷口が痛んで、……申しあげかねまする。

ダンカ　手傷と言ひ、言ふことゝいひ、汝は、如何にも立派な武士ぢや。……（侍者に）

早く醫師の許へ伴れていつてやれ。……

侍者ら武官を介抱して入る。

（彼方を見て）　來たのは誰れぢや？

貴族ロッスの領主出で來る。

マルコ　ロッスの領主でございます。

レノク　大急ぎで參つたといふことが目附に見えてをります！　容易ならん事の御報告に參つたのに相違ございません。

ロッス　（王に向ひて）　神よ、王を護せたまへ！

ダンカ　何處から參られたな？

ロッス　ファイフから、ノオウェー軍の大旆が、大空に羽擊きして、身方の膽を冷させまするファイフの戰場から參りました。　さてノオウェー王は、親ら大軍を引率致し、彼の大不忠の謀叛人コードアの領主の後援として、凄じい勢ひで攻寄せましたが、我軍神のマクベス將軍は、百錬鐵の甲冑に身を堅めて、駈向はれ、一劍と一劍、一騎打の勝負によつて、忽ち彼奴の不遜を取挫がれました結果、つまり身方の大勝利と成りましてございます。

ダンカ　さて〳〵喜ばしいことぢや！

ロッス　そこでノオウェー王スヱノーは、和議を申入れました。　なれども、聖コルム島に於て、資金一萬弗を我軍に獻じましたまでは、敵の死骸を埋葬けることをさへも許しませんでございました。

ダンカ　以上は、コードアをして二度と信任に背かしむべきでない。　直往つて彼れに死刑を申し渡し、其爵をマクベスに授けて、歡迎して來て下さい。

ロッス　かしこまりました。

ダンカ　奴の失うたものを、取りも直さずマクベスが手に入れた。

入る。

第三場　フォレス附近の原野

雷鳴　三妖巫出て來る。

第一妖　姉さん、何處へ往つてゐたい？

第二妖　豚を殺してゐたのよ。

第三妖　姉さん、お前は何處に？

第一妖　ある船頭の嬶が、前掛に栗の實を入れて、もり〳〵もり〳〵食つてやがつたから、「おれにも與んな」といつたら、「えゝ、魔法使め、去ッちまへ！」と怒鳴りやァがつたわな、肥ッちやうの下司女め。　あいつの亭主は、タイガー號の船長で、アレッポーへ往つてゐる。　今に見ろ、篩に乘つて渡つていつて、尾のない鼠に化けて、やッつけてくれら、やッつけてくれら。

第二妖　おらが風を與らうね。

第一妖　おかたじけ。

第三妖　おらも一手やらうよ。

第一妖　其他の風は予の許にあるから、風の達く限りの、風の知つてる限りの、船乘の繪圖面に載つてる處は、濱でも港でも、思ふまゝだ。　今に血を絞つて、奴めを枯草のやうにしてくれう。　夜だつて、晝だつて、瞼を閉がせるこッちやアないぞ。　奴め、呪に取附かれて、うんざりする七日七夜を、九九八十一度も重ねりやア、引縮んで瘦せて萎びッちまはア。　船を毀しッちまふことは出來ないけれど、さんざッぱら難船させてくれう。……おれの持つてる物を見な。

第二妖　見せなよ、見せなよ。

第一妖　ほら、本國へ歸る途中で難船して死んだ水先案内者の母指だわな。

此時奥にて陣太鼓の音聞える。

第一妖　太鼓だ、太鼓だ！　マクベスが來たんだ。

これにて三人、手に手を取りて、輪形に踊り廻りながら歌ふ。

一同　運勢扱ふ姉妹われら、
海でも陸でも一時千里、
手に手を取合ひ、ぐるりやぐるり。
おのしが三度で、おいらが三度、
も一つ三度で、ちやうど九つ。
しいッ！　もう可いんだ。

マクベスとバンコーと何か話しつゝ出て來る。

マクベス　如是な穢い清いな日は、曾て見たことがない。

バンコ　フォレスまでは、何位あるといふのです？……

此時二人とも始めて三妖巫に目を附ける。

や、彼奴らは何だ？　萎びた顔をして、狂人めいた裝をして、地上に住んでゐる者とも見えないが、現にあそこに出て來てゐる。……おのしらは生きてゐるのか？　人間と物を言ひ合ふとの出來る者か？……予の言ふことが解るらしいな、ひゞわれてゐる指を、三人一しよに、皺だらけの唇へ當てるところを見ると。　おのしらは女に相違ないが、髭が生えてゐるから、さうとも思はれん。

マクベ　物を言へ、言へるなら。　汝らは何だ？

第一妖　萬歳、マクベスどの！　萬歳、グラミスの御領主！

第二妖　萬歳、マクベスどの！　萬歳、コードアの御領主！

第三妖　萬歳、マクベスどの、ゆく〳〵は王さまとならつしやるマクベスどの！

マクベス　ぎょつとする。

バンコ　何故貴下は吃驚するのです？　大變にめでたい豫言ぢやありませんか？……やい、汝らは幻影のやうな者か、又は實際外面に見えてゐる通りの者か？　眞實の事を言へ。　おれの同僚殿を汝らは現爵で呼び掛け、且つ未來の榮進を祝し、尙又國王にまでもなられると言つたので、彼の人はあの通り茫然としてをられる。　汝らは予には何にも言はん。　若し汝らに、「時」の胎內なる事件の種子を看破する力があつて、どの粒が生長し、どの粒が生長しないかを豫言することが出來るなら、さ、言つて見ろ、予は汝らに最眉されようとも思はねば、憎まれるのを恐れてもゐないのだ。

第一妖　萬歲！

第二妖　萬歲！

第三妖　萬歲！

第一妖　卿はマクベスどのよりは小さいけれども、一倍大きい。

第二妖　マクベスどのほどに運が好くはないが、一倍運が好い。

第三妖　王さまにはならつしやらんけれども、王さまをば幾人も生まつしやります。

……だから、マクベスどのも萬歳！　バンコーどのも萬歳！

一同　マクベスどのも萬歳！　バンコーどのも萬歳！

三妖巫退き去らうとする。

マクベ　待て、曖昧なことを言ふ奴らだ、待て、もう一度言へ。父シネルが亡なつたから、予をグラミスの領主と呼ぶのは分つてゐるが、コードアとは何だ？　コードアの領主はまだ生きてて榮えてゐる。それから國王になるなぞといふことは、コードアの領主になるのよりも、尙一層信ぜられんことだ。如何いふわけで汝らは、こんな荒野原に待ち構へてゐて、そんな豫言めいた祝辭を述べるのだ？　是非返辭をしろ。

三妖巫消える。

バンコ　土にも泡が有ると見える、あれがそれだ。……何處へ消えたか？

マクベ　空氣の中へ。形が有るやうに見えてゐたのに、まるで息が風の中へ溶けるやうに消えてしまつた。あゝ引止めておきたかつた！

バンコ　實際噂をしてるやうな者が此處にゐましたらうか？　或は、理性を虜にする彼の狂亂草の根でも、お互ひに食つたのぢやないか？

マクベ　貴下の子供たちは王さまになると言ひましたぜ。

バンコ　貴下は自身で王さまになると。

マクベ　さうしてコードアの領主にもなると。　さう言ひましたらう？

バンコ　全く、その通り。……（彼方を見て）　誰れだらう？

貴族ロッスとアンガスと、ダンカン王の使者として、出て來る。

ロッス　マクベスどの、陛下は貴殿の大成功を聞しめされて、非常の御滿足でありました。　貴殿が親ら謀叛人共と戰つて、勇敢な働きをなされた報告書を御

寛になつて、暫くは驚異と賞讃と、何らを主にしたものかとまで感ぜさせられたが、やがてお心を沈着けられ、尙同日中の他の報告を御覽になると、今度は貴殿が、彼の頑强なノオウェー軍の眞中へ切入つて、怖しい死人の山を築きながら、更に怖るゝ色もなかつた勇猛の記事を讀ませられた。

アンガ　おッかけ〳〵來る注進は、悉く國家の干城としての貴殿の大功を賞讃し、霰の降るが如く、王の御前に降り注ぎました。

ロッス　で、吾々は、命を拜承つて、取敢ず御感謝のお言葉だけを貴殿に傳へます る、すなはち吾々は御前へ貴殿を御案内する爲に參上致したに過ぎません。更に大いなる御榮譽の豫證として、取敢ず貴殿をコードアの領主とお呼び申せといふお申し附であるから、貴殿の將來のお呼名である該稱號でお祝ひ申します、おめでたうござる、コードアの御領主！

バンコ　（傍白のやうに）　え、惡魔が眞實の事を言つたのか？

マクベ　（ロッスらに）コードアの領主は、まだ存命の筈だのに、どうして拙者にそんな借衣をお著せなさる？

アンガ　故の領主は、尙存命でございますが、重いお咎めを蒙つて、將に其命を失はんとしてをります。果してノオウェーと合體したのやら、只内々謀叛人に應援したのやら、或は兩樣ともに行つて祖國の顚覆を企てたのやら、解りませんが、とにかく大逆の證據が擧り、白狀も了み、彼れは滅亡と定りました。

マクベ　（傍白）グラミスとコードアと！　一番大いのが殘つてゐる。……（ロッスとアンガスとに）いやどうも御苦勞千萬で。……（バンコーに）君は、子供たちが、行く〳〵王になるだらうと思ひませんか？　わたしにコードアを與れた奴らが、君に然ういふ風に約束しましたぜ。

バンコ　それを本氣にお信じなさると、ついコードアだけでなく、王冠までも欲し

くなりませうぜ。……が、こりや不思議なことだ。どうかすると、惡魔が、人間を邪道へ誘はうとして、わざと眞實の事を告げることがある、一寸した驗を見せておいて、重大な事でおとしいれようために。……兩君、一寸お話がしたい。

三人立離れる。

マクベ　（傍白）二つ適中つた。王國を主題とした雄大な劇の開場詞としては幸先が好い。……（ロッスらに）御苦勞でした。……（傍白）此奇怪な胸騒ぎは、決して惡い兆ぢやない、善い兆でもない。惡い事なら、何も事實で始めて、成功の保證なぞを與へる筈がない。予は現にコードアの領主だ。……善い事なら、何故如是な誘惑が萠して、怖しい幻影が目に見えるか？　それを想像すると、身の毛が彌立つて、例になく心の臟が、肋骨へぶッつかるやうに、鼓動する。現在の怖しさは想像の怖しさ程ではない。今は只空想だけで殺人

を行つてゐるのだが、それが爲に予の心内は擾亂を極めて、いろ〳〵な臆測が分別を窒息させてしまつて、只空な考の外は何にも働かん。

バンコ　（ロッスらに）御覽なさい、同僚は氣拔のやうになつてゐます。

マクベ　（傍白）運で王になるのならば、手を下さなくつても、運でなれさうなものだ。

バンコ　（ロッスらに）新たに榮譽を賜つたのは、着なれない服を着るやうなもので、慣れないうちは、とかく密着しないものです。

マクベ　（傍白）どうともなれだ、大あらしの日だつて、時間は經つ。

バンコ　マクベスどの、御都合次第で、お伴しませう。

マクベ　御免下さい。忘れてゐたことを思ひ出さうとして、つい茫然してゐました。いや、兩君のお骨折は、心の帳簿に錄めて、毎日拜讀いたします。では王の御許へ參りませう。……（バンコーだけに）今日の事を御一考なすつておいて下さい、何れ後日、とくと考へておいて、お互ひに胸襟を披きませうか

ら。

バンコ　承知しました。

マクベ　今日は、ま、これで。……(アンガスらに)さ、兩君。

皆々は入る。

第四場　フォレス　王宮の一室

喇叭を盛んに吹鳴らす。王ダンカン、王子マルコム及びドナルベイン、貴族レノックス並びに侍者ら出で來る。

ダンカ　コードアの死刑は執行したか？　其役目の者は既う歸つて來たか？

マルコ　御前、まだ歸つて參りません。が、コードアの臨終に立合ひました者の申

すのを承はりましたが、彼れは尋常に謀反の顚末を白狀に及びまして、陛下の御宥恕を願ひ、深い後悔の色を現しましたさうにござります。豫て死ぬ覺悟をしてゐた者のやうに、取るに足らん物でも拋つが如きわるびれない死樣は、彼れが一生中の類のない立派な振舞であつたと申します。

ダンカ　容貌で人の心を知る法は無い。彼奴は、予が絕對に信用してゐた男であつたに。……

マクベス、バンコー、ロッス及びアンガス出で來る。

お、從弟どの！　今も今とて、君の功勞に能う報いんでゐるのを、濟まんと思うてゐた處ぢや。如何な速い翼の報賞があつたとても、君の足早な功績には追附きかねるわい。手柄が少と尠かつたなら、感謝も報酬も予の力で相應に出來たであらうに！　如何したつて、斯うしたつて、報い切れん程のお手柄ぢやといふより外に言葉はない。

マクベ　忠勤は臣下の當然でございますから、首尾よく勤めますれば、それで最早報酬は十分なのでございます。　陛下は只それをお受け下されば宜しいのです。　私共は王室の兒孫、國家の臣僕でございます、陛下に對し、一へに愛敬の微衷に背きませんやうに相勤めまするのが本分でございます。

ダンカ　ま、善うこそ。　予が手で植附けはじめたからは、十分生長させずにはおかんよ。……(バンコーに)バンコー、君の功勞も決して劣らない、又其劣らないといふ事を、同じやうに認められんければならんのぢや。　さ、胸と胸とが觸れるやうに、予に抱かせてくれ。

バンコ　若し其お胸の下で實りましたなら、御收穫はお心任せに。

ダンカ　(感涙を拭ひつゝ)あまり嬉し過ぎるので、喜びめが溢れ出して、つい悲し涙の中へ隱れをる。……伜らよ、王族たちよ、領主達よ、其他予に親近な人達よ、此際どうか承知しておいてくれられい、予は嫡子マルコムを後嗣と定めて、今後は彼れをカンバーランドの公子と呼ぶことにする。　但しそれと同時に、すべて功績ある人達の頭上にも、榮譽の章を星のやうに耀かすことにする筈ぢや。……(マクベスに)では、これからインヴァーネスへ行きませう、毎度御苦勞ながら同行して下さい。

マクベ　お役に立たんと思ひますと、休息してをるのが、却つて苦勞でございます。小官が先觸役を勤めまして、お成の事を妻に知らせて喜ばせませう。　では御免を蒙ります。

ダンカ　いやどうも御苦勞です！

マクベ　(行きかけて傍白)カンバーランドの公子！　此踏段で蹉躓くか、それを跳越すかだ、行く先に横はつてゐるのだから。……星よ、光を韜んでくれ、予の此眞黑な、重大な陰謀を照すな。　手を目には見せんやうにしておいて、爲果せた時になつて、見るのを目が怖るやうな事をしよう。

入る。　此間ダンカンはバンコーと何か話してゐる。

ダンカ　（バンコーに）いかにも、君のいふ通りぢや、彼の男は全く勇敢ぢや。彼れの賞讃を聞くのは、予に取つては此上もない響應で、滿腹の喜びぢや。……後を追うて行かう、彼れは予を歡迎しようとて、氣を揉んで先へ行つたわい。

王族中にも類のない男ぢや。

喇叭盛奏。　皆入る。

第五場　インヴーネス　マクベスの居城の一室

マクベス夫人書簡を讀みつゝ出る。

夫人　「予ノ彼等ニ逢ヒシハ凱旋ノ當日ナリ。　予ハ十分ノ證據アリテ、彼等ガ人智ノ及バザル事ヲ知レル由ヲ承知セリ。　サテ尙クハシク聞糺サント心ヲ焦ツウチニ、彼等ハ忽チ空氣ノ中ニ消滅シ去リタリ。　予ガ駭キ怪ミテ、茫然タリシ折カラ、王ヨリノ使節來リ、予ヲコードアノ領主ト呼ビ掛ケテ祝賀セリ。　其呼名ヲ、彼ノ奇シキ巫女ラハ、ソノ以前ニ予ニ對シテ用ヒタルノミナラズ、尙予ガ將來ヲ祝シテ、「王トナラル、人、萬歲！」ト呼ベリキ。　約サレタル行末ノ光榮ヲ分ツベキ卿ガ、其慶ビヲ知ラデ在スルヤウナル事アリテハト、此事知ラセ申スナリ。　トクト考ヘタマヘ。　サラバ。」

グラミスの領主でもあり、コードアの領主でもある。　して見れば豫言通りの身分にもお成りだらう。　けれども貴郎の氣質が心配になる。　手取早くやつてのけるには、甘過ぎる、柔和し過ぎる。　偉い人にならうといふ希望もあるし、大望もないではないけれど、それを遂げるには、是非共なくちや

From the painting by Richard Westall, R. A
"The raven himself is hoarse
That croaks the fatal entrance of Duncan
Under my battlements."

ならん横道な心が無い。　無上に欲しがつてゐながら、不淨な手段は用ひまいとなさる、不義を行ふのを厭がつてゐながら、不正な望を抱いておいでだ。　グラミスどの、貴郎の手に入れたがつてゐなさるものは「これが欲しければ、斯う〳〵しなければ不可い」と呼んでゐますよ。　けれども貴郎には、それを實行する勇氣は無いんだ、實行したくないのではないけれど。……さ、早く此處へおいでなさい、わたしの精神を貴郎の耳の中へ注込むから。　さうして、運命や不思議な援助が貴郎に授けようとしてゐる黃金の冠りの邪魔になるものを、此舌の力で、叱り飛ばしてくれるから。……

使者役の者出る。

使者　何の用だい？

夫人　王さまが今晩お成になります。

使者　ま、狂人めいたことを。　王のお傍には殿がお在だらうぢやないか？　そん

な事があれば、準備をするやうにと、豫めお知らせがあるべきです。

使者 失禮ながら、全くでございます。殿さまもお歸りでございます。同役の者が一人、大急ぎでお先觸に參りましたが、殆ど息を切つて、やつとの事で、お使ひの趣旨だけを申し述べました。

夫人 いたはつておやり。容易ならん報道を持つて來た奴ぢや。……

使者役入る。

鴉さへ嗄れ聲をして、不運なダンカンが予の城へ來るのを知らせる。……さア、怖しい企事の介添をする精靈共よ、早く來て予を女でなくしてくれ、頭から足の爪先まで、酷い、殘忍な心で充溢にしてくれ！　予の血を凝結せてくれ、慈しい心の通路を斷ッちまつてくれ、憫む心なんかゞ働いて、酷い企をぐらつかせたり、實行の邪魔をしたりしない爲に！　さア、此の女の胸へ入つて來てくれ、やい、人殺を職にする精靈共よ、此の甘たるい乳を苦

い膽汁に變ッちまつてくれ、目に見えない姿をして、人間の惡事を手傳ふ汝等、今何處にゐるか知らんが！　さア、眞闇な夜よ、汝も來て、黑闇地獄の黑煙で、押包んでしまつてくれ、予の鋭い劍に己が切る創口を見せないために、天が黑闇の幕越しに隙見をして、「待て、待て！」と呼ぶやうなことのないために。……

マクベス　出て來る。

ま、グラミスどの！　ま、コードアどの！　（走りよりて、抱擁して）其二つより も、もつと〳〵偉い貴郎、未來を祝つた豫言によると！　わたしは、お手紙を讀んだので、何にも知らないでゐた現在から、つい未來へ一足飛に伴れて行かれてしまひましたのよ。

マクベ　なア、お前さん、ダンカン王が、今夜こゝへ來られるんだ。

夫人　さうして何時お立ちなさるのです？

マクベ　明日といふ豫定だ。

夫人　お〻其明日をば、決して太陽に見せますまいぞよ！……貴郎、貴郎の面は誰の目にも奇怪な事の書いてある書籍のやうに見える。周圍を欺すには周圍と同じやうにしていらつしやい。目にも手にも舌にも歡迎の意を示して、罪のない草花と見せかけて、其蔭の蝮になつてゐなくちやいけません。さ、來る人の待受けをせねばなりますまい。今夜の大切な仕事は萬事わたしにお任せなさいまし、未來永遠に無上の權力を得ると得ないとは、それで決るのですから。

マクベ　尙とくと相談しよう。

夫人　只晴々した顏をしていらつしやい。面色の變つてゐるのは、胸に怖れのある徵ですから。他の事は、萬事わたしにお任せなさい。

入る。

第六場　同じ處　城門の前

木笛を吹鳴らす。炬火を持ちたる者數人出る。つゞいてダンカン王、マルコム、ドナルベイン、バンコー、レノックス、マクダッフ、ロッス、アンガス及び侍者ら出て來る。

ダンカ　こりや氣持の好い處ぢや。爽かな、柔かな空氣の肌に觸るのが、いかにも好い心持ぢや。

バンコ　寺院を好みまする、あの、夏の客の燕めが、熱心に鏝細工をやつてをります のを見ましても、此邊では天の息が懷しらしう薫つてをりますことが分ります。　檐先、長押下、控へ壁、其他便宜の隅々に、彼れめが吊床をこしらへて、雛の搖藍を掛けてをらん處はございません。彼の鳥が好んで巢をくひまする處は、經驗によりますと、空氣がよろしうございます。

マクベス夫人出る。

ダンカ　見い〳〵、奧さんが見えた……（夫人の敬禮を受けて）あんまり好かれて附纏はれても迷惑なものぢやが、好かれたゞけは有難く思ふのが人情ぢや。貴女も予の爲に冥福を祈つて下さい、斯う附纏つて貴下達を煩はすのを有難く思うて。

夫人　私共が、御奉公を二倍に致した上に、更に二倍に致しましたとても、陛下が

當家へ下しおかれまする深大な光榮に比べますれば、物の數とも存ぜられませんで。從來の〻上へ、更に積み加へさせられました御授爵に對しまして、私共は永く御冥福を祈りまする。

ダンカ　コードアの領主は何處にをられる？　すぐ馬で後を追うて設備係を勤めようと思うたのであつたが、本來が馬術の達人であるのに、熱烈な忠誠が拍車同樣に馬の足搔を速めさせたので、吾等よりもずッと前に歸邸された。……奥さん、今夜は御厄介になりますぞ。

夫人　御家來たる私共は、家の者も、自身も、財産も、みんなお借申してをるのでございますから、御意次第で、いつでも決算をして御返納する積でをりまする。

ダンカ　お手を。御主人の許へ案内して下さい。予は御主人が大好きぢや、さうしていつまでも渝らん積ぢや。……御免なさい。

夫人の手を式の如く取りて、並んで入る。みなくつゞいて入る。

第七場　マクベス居城内の一室

木笛を携へたる者、炬火を持ちたる者出る。其後より配膳係の者並びに皿、鉢、膳等を携へたる種々の家僕共出で來り、舞臺を通り過ぎる。とマクベス出る。

マクベ　（獨白）やつてしまへば、それで事が濟むものなら、早くやつてしまつたはうが可い。暗殺といふ一網を下しさへすれば、一切の結果を羅し盡してしまへるものなら、此一擊で以て萬事終局するものなら、それが此世での、「時」

の此方岸、此淺瀬での終局であるのなら、未來なんか關つたとはないんだ。が、斯ういふことゝなると、必ず現世で制裁が有る、不仁を敎へるやうな事をして見せると、それが忽ち應報して其敎へた者を苦しめる。公道の公平な手は、毒盃を盛つた者の唇へ、其同じ毒酒を注ぎ込む。……二重に信賴する理由が有つて、彼れは此處へ來てゐるのだ。先づ、予は彼れの近親でもあり、臣下でもあるから、決してさういふ惡事を行ふべきでない。次に予は、力めて逆意ある者の近寄らんやうに守るべき筈の東道なのだから、自分で刃を揮ふなぞといふことはあるまじき事だ。況んやあのダンカンは、あの通り穩和に、寬仁に、何等の缺點もなく、よく國君としての職責を盡して來てゐるのだから、彼れを弑するといふやうな大逆を行つた時分には、彼男の平素の德が、喇叭舌の天使のやうに、罪なくして害された怨を述立てるであらう。さうして世間の同情は、生れたての赤子が風に乘つたやうに痛々しがり、又は目に見えん空の飛馬に騎つた天童のやうに、命令的に、此怖しい惡業を人人の目へ吹込んで、其風も和ぐ程の涙の雨を催させるであらう。予が乘つてゐる此企謀を刺戟する拍車は、一つもない、只跳上る大野心めが、おのが分際を跳越して、とんでもない方へ墜落ちようとしてゐる。……

夫人出る。

夫人　どうしたのだ！　如何かしたのかい？

マクベ　お夜食はもう大概お了みですよ。何故貴郎はお外しなすつたの？

夫人　何とか予の事を訊ねられたかい？

マクベ　ぢや、貴郎はあれを御存じぢやなかつたの？

夫人　なア、あの事は、ま、やらないでおくことにしようよ。……王は、いろ〳〵の榮譽を予に與れられたばかりの處だ。さうして貴賤上下ともに、今予を非

常に尊敬してゐる。此新たに得た名譽や信用の燦々してゐるのを、身にも着けないで、むざ〳〵棄てるでもあるまいと思ふ。

夫人　ぢや先刻まで身に著けていらしつた彼の「希望」は、ありや正氣ぢやなかつたのですか？　あの「希望」が、あれから一睡眠したのですか？　さうして今目を覺して、先刻は平然として正視し得た事を、馬鹿ァな顔して、眞蒼になつて見てゐようといふのですか？……今日からは、わたしに對する貴郎の愛情もそれと同じだと思ひます。斯うしたいと望んでゐながら、それを貴郎は勇敢に實行することが出來ませんの？　一生の飾だとまでに憧れて、どうかしてそれを手に入れたいと思ひながら、自分でも臆病者とお思ひなさる程意氣地なく、諺の猫のやうに、「欲しい〳〵」とおつしやる口の下から「でも予には出來ない」とおつしやらうといふのですか？

マクベ　まゝ、しづかに。男子のすべきことなら、何でもやつて見せるが、その以外

の事をするのは男子ぢやない。

夫人　ぢや獸物か何かでしたか、先刻貴郎に勸めて、わたしにあの大事を打明けさせたのは？　思ひ切つてお打明けなすつた時こそ、貴郎は男子であつたのです。だから、それより以上の事をなされば、いよ〳〵ます〳〵男子らしくおなりなのです。あの時には、時も處も思ふやうではなかつたのですのに、それを製へてまでもと思つていらつしつたんです。今其二つが自然に出來て、好い都合になつて來たのに、貴郎は却つて逡巡をなさる。わたしは乳汁を飲ませたことがありますから、赤兒の可愛さは善く知つてゐます、けれども、若しわたしが、貴郎がお誓ひなすつたやうに、一旦斯うしようと誓つたなら、其赤兒がわたしの顔を見て、莞爾してゐる最中にだつて、其ぶよ〳〵した齒齦から無理やりに乳首を引奪つて、其腦髓を叩きつけて微塵にして御覽に入れます。

マクベ　だが、若し仕損じるといふと？

夫人　仕損じる！　思ひ切つて勇氣をお出しなさいまし、さうすれば仕損じはしません。ダンカン王がよく眠入つた時分に、……けふ一日の激しい旅疲れで、きつとよく眠入るでせうから……　わたしは、あの二人の侍從に葡萄酒を勸め、祝盃を重ねさせて、胸の番人の記憶力も煙のやうになり、理智の器もほんの蒸溜罐に過ぎないやうにならせませう。　彼奴らが豚のやうに眠込み、死人のやうに醉倒けてしまつた以上、衞り手の無いダンカン王です、貴郎とわたしとで、如何ともならうぢやありませんか？　海綿のやうに酒侵しになつてゐる侍從どもに、すつかり弑逆罪を被せることも出來ようぢやありませんか？

マクベ　男の兒ばかりをお生みなさい、其不敵な精神ぢや男性の他を製へることは出來まい。　同じ室に臥てゐる其二人に血を塗附けてさうして短劍も其奴らのを使ふことにすれば、奴等がした事のやうに思はれさうなもんぢやないか？

夫人　さう思ひませうとも、わたしたちは業々しく聲を揚げて、王の變死を歎いて、騷ぎ立てませうから。

マクベ　予は決心した。　全力を絞つて、此怖しい仕事に取掛らう。　さ、あちらへ。出來るだけ好い顏附をして人目を眩しなさい。　心に僞りを藏してゐる時には、面を僞りで包んでゐなければならん。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊

第二幕

第一場　マクベスが居城内の庭

バンコーを案内しつゝ其子フリヤンス炬を持ちて先に立ちて出で來る。

バンコ　もう何時だ？

フリヤ　月は落ちましたが、時計の音は聞えませんでした。

バンコ　かうと、月は慥か十二時に沈む筈だ。

フリヤ　もう少と晩いかと思ひます。

バンコ　待て、此劍を持つてくれ。……天にも儉約といふことがあると見える。燭臺がみんな消えてしまつた。……これも持つてくれ。……眠くて、眼蓋が鉛で壓へられるやうだ。が、眠りたくはない。……慈悲深き神々よ、何卒睡眠中に念頭に浮ぶ非道な考を取挫ぎたまへ！……

マクベス、炬を持てる一從者を從べて出で來る。

（フリヤンスに）其劍を。……誰れだ？

マクベ　大事ない者です。

バンコ　や、まだお寢みぢやなかつたのですか？……王は既う御寢なりました。今日は非常の御機嫌で、當家の御家來衆へは、それ〴〵夥しい下賜物がありました。又此金剛石は、懇篤な待遇を受けた感謝の章だと仰せられて、奥方へとのお沙汰です。限りなき御滿足の體であらせられました。

マクベ　何分にも不意の事で、萬事足らはぬ勝で、思ふやうにお饗應が出來ませんでした。

バンコ　萬事上首尾でした。……時に、わたしは、先刻例の三人の妖しい巫女を夢に見ました。彼等が貴下に言つたことは大分中つた。

マクベ　わたしは、つゝ、彼件は忘れてゐた。……が、其中間暇があつたら、あの件に就いて少少御相談したいと思ふことがある、時間を繰合して下されば。

バンコ　いつでも御都合次第で。

マクベ　若し其際同意して下さるやうだと、彌ふとなつた曉に、それは必ず君の名譽を加へることになるだらうと思ふ。

バンコ　加へようとして、却つて名譽を失ふやうなこともなく、心に疚しさを覺えるやうなことも、忠勤を缺くやうなこともなくて出來ることなら、何でも御相談に參與りませう。

マクベ　ま、御機嫌よう、お休みなさい！

バンコ　ありがたう。君にも！

バンコーとフリヤンスと入る。

マクベ　（從者に）奥さんの許へ往つて、例の飲物が出來たら、鐘を鳴して下さいと言へ。退つて寢め。……

從者入る。ふと虚空に物在るを見て、駭く。

あれは短劍だな、あそこに見えるのは、欄が此方へ向いて？……さア、掴んでくれう。……掴まれない、けれども見えちやゐる。……あゝ不吉な幻影、汝は目には見えても手には取られんのか？　汝は逆上した腦髓の作用で生れた心の劍なのか？　僞物なのか？　まだ見える。（劍を拔きて）今予が拔く此短劍と格好も全然同じだ。……汝は予が往かうとした方へ案内をしようとするのだな。恰ど然ういふ道具を使はなくちやならんと思つてゐたのだ。若し目だけが狂つてゐるのでなければ、他の感覺が悉皆間違つてゐるのだ。まだ見える、のみならず、刃や欄に、前には見えなかつた生血が凝り附いてゐる。……（やうやく我に復りて）いや、そんな物は有りはしない。殘忍い事をしようとしてゐるから、あんな物が目に入るのだ。……今世界の半面では、萬物が死んだやうになつてゐる。帳中の眠も惡夢に襲はれてゐる。魔術使の女共は、蒼白めた顏のヒカトに供物をする、憔悴れた殺人者は、其見張役を勤めて吠える狼の聲に促されて、ま斯んな風に拔足して、荒淫無慚なタークインの足附で、其目的の方へ、幽靈のやうに近づく。……やい、堅牢な地面よ、予の足が何方へ往かうと、其音を聞くなよ、其邊の石共が予の居處を口走つて、恰ど今の場合にふさはしい此物凄さを失してしまつてはならんから。……口で脅してゐる間は、彼れは尙生きてゐる。實行の熱烈なのに比べると、言葉は甚しく冷くて力の無いものだ。往けば直に了んで

しまふ。……

奥にて鐘鳴る。

あれは呼出しの鐘だ。……あの音を聞きなさんな、ダンカン。あれはお前さんを天堂だか地獄だかへ呼迎へる臨終の鐘の音だ。

入る。

第二場　同じ處

マクベス　夫人出で來る。

夫人　彼奴らを醉はせた酒がわたしをば大膽にならせた。あれで彼奴らは滅入ッちまつたが、わたしの心の火は煽り立つて來た。……おや！　しッ！　今

啼いたのは梟らしい、あの、凄い聲で「今晩は」と呼び立てる不吉な夜番の！……今行つてゐるのだ。……扉は開けといた。侍從共は、たらふく飲んで、おのが職務を馬鹿にしてるかのやうに大鼾をかいてゐる、死んでゐるのか生きてゐるのか分らない程に藥酒で醉はせておいたから。

マクベ　（奥にて）だれだ？　おい、こら！

夫人　（ぎよつとして）あら！　目を覺したのぢやないか知らん、爲遂げないうちに。……爲かけて爲遂げないのが、身を滅す基になる。……（聞耳を立てゝ）おや！……短劍はちやんと准備しておいたんだから、見附らない筈はない。……寢顏がお父さんに似てさへゐなけりや、先刻自分で行ッちまつたものを。……

マクベス　血に染みたる二本の短劍を持てるままにて出で來る。

夫人　あなた！

マクベ　やッちまつた。音がしやしなかつたかい？

夫人　梟と蟋蟀の啼くのが聞えたばかりです。何とかおつしやつたやうでしたね？

マクベ　何時？

夫人　今がた。

マクベ　降りかけた時に？

夫人　はい。

マクベ　（ふと聞耳たてゝ）おや！……次の間に臥てるのはだれだい？

夫人　ドナルベインです。

マクベ　（血に染みたる我手をながめて）あゝ、なさけない様だ。

夫人　馬鹿なことを、なさけないなんて。

マクベ　一人の奴が、眠てゐながら、笑ひ出すと、一人の奴が「人殺し！」と呼號つて、それで二人とも目を覺した。で、突立つて聞いてゐると、二人は祈禱をはじめて、又眠てしまつた。

夫人　あそこには二人一しよに眠でゐますのよ。

マクベ　一人が、「神さま お助け下さい！」といふと、一人が「何卒！」といつた、死刑執行人の手のやうな此手を見附けたらしく。奴らが怖がつて「お助け下さい！」といふのに、予はそれを聽いてゐながら、どうしても「何卒」と言へなかつた。

夫人　そんなに思ひ込まない方がようございます。

マクベ　だが、何故「何卒」と言へなかつたのだらう？　予こそお助けの必要を最も切に感じてゐたのだ、それだのに「何卒」が喉に塞えた。

夫人　斯ういふ事は、そんな風に、考込んぢやいけません。　そんなに思ひ込むと氣が變になッちまひます。

マクベ　何處かで聲がして呼號つてゐるやうに思つた、「もう安眠は出來んぞ！　マクベスが安眠を殺しッちまふ」と。……あの、罪の無い、心の縺れを好い鹽梅に整へてくれる安眠を、其日々々の生の寂滅とも、勞苦の浴とも、傷ついた精神の藥膏とも、大自然が供する二の膳とも、生命の主要な滋養物ともいふべき安眠を……

夫人　何をおつしやるのです？

マクベ　いつまでも家内中に向つて呼號つてゐたんだ、「もう安眠は出來んぞ！　グラミスが安眠を殺してしまつた。　だからコードアも最早安眠することは出來ない。　マクベスも最早安眠することは出來ない。」

夫人　誰れなの、さう呼號つたのは？……ねえ、貴郎、そんなに狂人めいた風におお

考込なさるのは、自身で自身の立派な器量を腐らしておしまひなさるのです。……さ、水を取つて來て、其穢らしい手の證據を洗ひ落しておしまひなさい。……何故貴郎は此二本の劍を持つて來たのです？　あそこに置かなくちやいけないんですのに。　さ、持つてッて、血を眠てゐる侍從共に塗附けていらつしやい。

マクベ　予はもう往くまい。　行つた事を考へるのがいやだ。　二度とあれを見る勇氣はない。

夫人　いくぢのない！……其劍をおよこしなさい。　眠てる者や死んでる者は、畫像同樣です。　畫にかいた鬼を怖がるのは子供です。……血が出てゐたら、それを罪と一しよに侍從共の顏へ、塗附けて來よう。

夫人劍を持ちて入る。

此時奥にて門を叩く音聞える。

マクベ　や、何處かで叩く？……どうしたといふのだ予は？　音がするたびに怪々する。……ま、何といふ手だ？　や！　目の玉が引摺り出されさうだ。大海神の大洋の水を盡しても、此手を淨めることは出來まい　いや〳〵、あの限りのない碧い波が、却つて眞紅になッちまふだらう。

夫人又出で來る。

夫人　わたしの手も貴郎のと同じ色になりました。けれども、心の臟は、貴郎のやうに白ッちやけちやゐませんよ。……

又戸口を叩く音が聞える。

南の門を誰だか叩いてゐますよ。室へ戻りませう。水で一寸洗ひさへすれば、爲た事は消えッちまひますの。造作は無いぢやありませんか！　貴郎は、度胸を何處へか去ッちまつたんですね。……

又門を叩く音。

あれ！　又叩いてゐる。早く夜の服をお召なさいまし、ふいと呼出された時分に、寢ずにゐたのを勘附かれるといけないから。そんなに情ない風にぼんやりしちやいけません。

マクベ　爲た事を憶ひ出すとすると……茫然してゐるのが一番可い。……

又門を叩く音。

ダンカンを叩き起してくれ！　さうして貰ひたい、出來るものなら！

二人とも入る。

第三場　同じ處

門番出で來る。奥にて叩く音。

門番　えらく叩きやがるわい！　これが地獄の門番であらうものなら、嘸鍵扱ひの忙しいことだらう。（叩く音）叩く、叩く、叩く！　どなたです、惡魔長さまのお名前で訊ねますぞ？　豐年になりさうなので、首を縊つたお農夫さんかね？　恰ど好い時に來なすつた。　手巾の准備は可いかね？　今に油汗をどつさり出さつしやるだらうぜ。（又叩く音）叩く、叩く、叩く！　もう一人の惡魔さんのお名前で伺ひますが、どなたですね？　成程、お前さんは兩天秤の二枚舌で、眞赤な空誓文をなすつた人だね。神さまのお爲に、さんざッぱら嘘を吐いた重寶な舌も、天へ行く役にや立たなかつたと見えるね。　さ、お入んなさい、二枚舌さん。（叩く音）叩く、叩く、叩く！　どなたですね？　成程、英吉利の裁縫屋さんだね、佛蘭西式の細袴の寸を盜んだので墮ちたんですね。　さ、お入りなさい、裁縫屋さん。　此處は火熨斗を炙るにや都合の好い處でさ。（又叩く音）叩く、叩く、些も止めないや！　どなたですね？……だが、こゝは地獄にしちや寒過ぎるわい。　もう地獄の門番は止めよう、櫻草の花道を通つて、消えずの花火へやつて行く手合は、どの職業のも二三人づゝ通してやらうと思つてたのだが。（叩く音）　只今、々々！　どうぞ門番をお忘れなさらないやうにね。

門を開ける。

マクダフとレノックス出で來る。

マクダ　（門番に）斯うおそくまで眠てゐるのを見ると、昨夜はよッぽど遲くなつてから寢たものと見えるの。

門番　へい、二番鷄が啼くまでも飲んでをりました。　彼の三件は、とかく酒故に募ります。

マクダ　特に彼の三件といふのは何だ？

門番　へい、小便と鼻の赤くなるのと眠くなるのとでございます。　淫情は募りも

しますが、衰へもします。其氣は盛んになりましても力が脱けます、ですから大酒は、淫情から見ると、何方附かずです、立てたり、仆したり、けしかけたり、止めて見たり、勇ませたり、落膽させたり、ふんばらせたり、逡巡みさせたり、とゞのつまり、胡魔化して寢せつけて、此二枚舌めと惡體を吐いて去つてしまひます。

マクダ　汝も、昨夜は、酒に然ういはれたらしいな。

門番　へい、さん〳〵馬鹿にしをりましたので、返報をしてやりました。奴となら、負けるこッちやありませんから、時々脚下が危ッかしくなりましたつけが、つまり呟と突戻してくれました。

マクダ　汝の御主人は起きられたか？……

マクベス出で來る。

わたしらが叩いたので起きられたと見える。あそこへ見えた。

レノク　（マクベスに）お早うございます。

マクベ　お兩人ともお早う。

マクダ　王はお目覺ですか？

マクベ　まだです。

マクダ　時刻の恰ど好い時分に來いといふ仰せでしたが、あぶなく時後れになるとこでした。

マクベ　では御案内しませう。

マクダ　喜んで御案内下さるとはいへ、御苦勞に存じます。

マクベ　喜んですることは苦痛にはなりません。……こゝが御寢所口です。

マクダ　かまはず推參しませう、豫てのお吩咐なのだから。

マクダッフ入る。

レノク　王は今日お立ちですか？

マクベ　さやうです。然うお決定になつてゐます。

レノク　昨夜は騒がしい晩でしたなア。我々共の宿では、煙突が吹倒されました。世上の噂では、空中に泣聲が聞え、今が斷末魔かと思はれる奇怪な叫び聲や、わるい時節に相應して新たに釀し出される騒動や珍事を知らせ顏の怖しい聲々が聞え、例の夜の鳥が夜通しに啼いたさうです。或は、大地が瘧に罹つたやうに震へたともいひます。

マクベ　さう〳〵しい晩でした。

レノク　手前なぞの若い記憶中には對例を求めることが出來ません。

マクダフあわたゞしく出て來る。

マクダ　あゝ怖しや〳〵〳〵！　口にもいはれない、心に思ひ附くことさへも出來ない！

マクベ
レノク　どうしたのです？

マクダ　此上もない大破壞が行はれたのです！　無慚至極の弑逆が、勿體なくも神聖な御寶庫を切破つて、御玉の緒を盗み去りました。

マクベ　え、何とお言ひなさる？　御玉の緒？

レノク　とおつしやるのは、陛下の事ですか？

マクベ　自身で御寢所に近づいて、現ゴオゴンを御覽なさい、一目見りや目が潰れッちまふだらう。わたしに言へとおいひなさるな。自分で見て、自分でお言ひなさい。

マクベスとレノックスは急いで入る。

（奥に向ひて）起きた、起きた！　さ、早く非常鐘を鳴らしなさい。大逆罪を働いた者がありますぞ！　バンコーどの、ドナルベインどの！　マルコムどの！　お起きなされ〳〵！　死の僞物の熟睡を拂ひ落して、眞物の死を御覽なさい！　起きた〳〵、早く起きて、大審判日の面影を御覽なさい！

マルコムどの！　ドナルベインどの！　此怖しさに釣合ふために、墓場から來る幽靈のやうにして出ておいでなさい。

非常鐘鳴渡る。

マクベス　夫人出る。

夫人　如何したのでございます、忌はしい非常の知らせが邸中の眠てゐる者を呼集めますのは？　おつしやつて下さい、おつしやつて下さい！

マクダ　あゝ奥さん、よしそれが言へるにしても、貴女がお聽きなさるべき事ぢやありません。婦人は、聽いたばかりでも命を失ふでせう。……

バンコー出る。

おゝバンコーどの、バンコーどの、陛下は弑せられておしまひなすつた！

夫人　まア！　どうしたらよからう！　え、此邸内で？

バンコ　それが何處であらうと、無慚千萬。　おい、マクダフ、どうぞ今君のいはれたことは間違つてゐたと言つてください。

マクベスとレノックスと出る、ロッスも共に。

マクベ　此一時間前に死んでゐたなら、幸福な一生を送つたと言へたものを。今からは最早此生に、眞實に大切な物は何にもなくなつてしまつた。取るに足らんものばかりだ。譽も德も絶えてしまつた。人心に勢ひを附ける命の酒が酌干されてしまつて、只滓渣ばかりが此穴倉の中に取殘されてゐる。

マルコムとドナルベインと出て來る。

ドナル　何か凶變が起つたのですか？

マクベ　貴下がた御自身のお身の上に起つたのを御存知ないのです。貴下がたの御血統の泉が、源が止りましたのです。本が枯れさせられたのです。

マクダ　御父上が弑せられなすつたのです。

マルコ　え、だれに？

レノク　お傍仕の二人の者らしうございます。　彼等は、手も顔も血だらけになつてをりました。　枕元にありました彼等の短劍はまだ拭はずにありました。……二人とも目を据ゑて、亂心の體で、到底うつかり近寄れ　さうに　ございませんでした。

マクベ　あゝ併し、今更、つい憤激の餘りに、彼等を殺したのを後悔します。

マクダ　何故殺したのです？

マクベ　だれに出來ますか、同じ瞬間に、狼狽へながら善く分別し、憤激しながら沈着き、忠義を存じながら冷淡に振舞ふといふやうなことが？　誰れにだつて出來るこツちやない。　御變死を悲む義憤の念が、思慮分別を跳り越えてしまつたのです。……こゝにダンカン王が韓紅の血汐に白金の御肌を染めさせて、横たはつて　お出なされる。　其切開かれた　御創口には、破滅めが無法に闖入した跡も歴然に、人體の崩壞口かとも見えてゐる　此方には、逆臣共が、其大逆の色に浸り、又其短劍には、凝り附いた血で鞘が出來てゐる。苟にも君を思ふ眞情があつて、之を實に　するの　勇氣がある以上、忍耐なんか出來なからうぢやないか？

夫人　あゝ、あちらへ伴れていつて下さい！

マクダ　それ、奥さんを。

（人々　夫人の　介抱　せんとて　立騒ぐ。）

マルコ　（ドナルベインに傍白）これはわたしたちが　眞先に立つて議すべき事であるのに、何故お互ひに默つてゐるのだらう？

ドナル　（マルコムに傍白）　こゝで　何が　言はれるもんですか？　どんな運が　錐の穴に　借んでゐて　飛出して　來て、わたしたちを　取捉まへる　かも知れないんだから。　彼方へ行きませう……まだ涙は出ない。

マルコ　ささうさ、まだ激しい悲みを發表する段取になつてゐない。

バンコ　奥さんを御注意なさい。……

人々夫人を介抱して入る。

吾々とても、此薄衣のまゝで、夜風に當るのは如何はしいから、服を改めて會議を開いて、此無慚至極な暴逆事件を更に深く取査べませう。今は恐怖と疑惑とで、お互ひに心が落着きません。拙者は神の御手に信頼して、如何なる秘密の惡企があるとも、それと戰ふ積です。

マクダ　私も御同様です。

皆　われ〳〵とてもです。

マクベ　まづ早速、きりゝとした服に被替へて、大廣間へ集ることにしませう。

皆　さうしませう。

マルコムとドナルベインとの外皆入る。

マルコ　お前さんは如何する？　彼の手合とは一しよになるまいよ。眞情のない者に限つて、心にもない愁歎をして見せるものだ。わたしは英國へ往かうと思ふ。

ドナル　わたしは愛蘭國へ往きます。運を別々にするのが、お互ひの安全の爲でせう。こゝには笑の裡に刃が有る。血の近い者ほど血なまぐさい事をしさうです。

マルコ　弑逆の鏑箭は、今まだ切つて放したばッかりで、何處へ落ちるのやら分らない。とにかく、其覘を避けるのが安全の道だ。だから、早く馬に。暇乞の挨拶なぞ彼此言つてゐる場合でない。そつと脱出さう。他に助かる道のない時には、自分の命を盗むのは、許さるべき窃盗罪です。

二人共に入る。

第四場　城外

ロッスと一老人と出る。

老人　此七十年間の事は善く記えてをります。其長い一卷の中で、怖しい時節をも、奇異な物をも見ましたが、今晩の凄さに比べますと、それらは何でもございません。

ロッス　あゝ、爺さん、天も人間の殘忍な所業をお歎きなさるものと見えて、あの通り、陰鬱に曇つて見える。時計では白晝だが、夜の闇が、あの巡行く燭の光を蔽つてしまつてゐる。こりや、夜が威を擅まゝにしてゐるのだといはうか、晝が恥ぢて逡巡してゐるのだといはうか、活々した光の照すべき時刻に、こんなに地上が眞闇なのは？

老人　奇異なことでございます、昨晩の珍事同樣に。先の火曜日には、大空で舞つてゐた鷹が、鼠を捕る梟の爪にかゝつて死にました。

ロッス　それからダンカン王のお乘馬が……奇怪な事だが事實だ……立派な逸物で、其種の中での可愛がられものだつたが、俄かに氣が荒くなつて、廐を破つて飛出して、まるで人間と戰鬪でもしようとするかのやうに、反抗

した。

老人　馬同士も咬合つたとか申します。

ロッス　その通り。それを見てわたしは實に駭いた。……あ、あそこへマクダッフどのが見えた。……

マクダッフ出て來る。

マクダ　其後の模樣は如何なです？

ロッス　まだお氣が附きませんか？

マクダ　あの大逆を行つた當人は、だれだか分りましたか？

ロッス　マクベスどのが誅戮せられた彼の二人でせう。

マクダ　やれ〳〵！　何の爲にあんな事をしたでせう？

ロッス　教唆されてしたのでせう。マルコム、ドナルベインの二王子は、窃と脱走せられたので、嫌疑は專ら二王子に懸るのです。

ロッス　いよ〳〵以て奇怪千萬です！　自分の命の綱を喰切るといふのは、ま、何といふ亂暴な慾心だらう！　では多分王權はマクベスどの丶手に入るでせうな。

マクダ　もう既に指名も濟んで、卽位式を行ふためにスコーンへ出かけられたのです。

ロッス　で、ダンカン王の御遺骸は？

マクダ　御先祖代々の御埋骨所の、あのコルンキルのお廟へ持つてゆきました。

ロッス　貴下はスコーンへお出向ですか？

マクダ　いや、わたしはファイフへ歸る積です。

ロッス　私はスコーンへ參る積です。

マクダ　では、あちらで萬事めでたくお濟しなさるやうに。今のうちに御機嫌ようと言ひませう、新しい服は舊い服よりも被心が惡いかも知れないから！

ロッス　（老人に）お爺さん、さよなら。

老人　御機嫌よろしう。惡をも善とし、仇をも友となされる人達に、神の御惠常に下れ。

みな入る。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

第三幕

第一場　フォレス宮殿中の一室

バンコー出て來る。

バンコ　お前は豫言通りになつた……王にも、コードアにも、グラミスにもなつた、あの妖しい女どもの約束した通りに……さうして、それが爲に、お前は非常な不正手段を行つたらしい。が、過日の豫言によると、それはお前の子孫には傳はらないで、未來の諸王の先祖には、予がなるといふことであつ

た。もし彼女等の言ふことが中るとすると、……マクベス、お前の場合には中つた……お前のが一々中つたのによつて見ると、予とても、彼件を神託だと思つて、未來に望を懸けて好い譯になる。が、しッ！　もう止さう。

センネット調の喇叭。王の資格にてマクベス、王妃の資格にてマクベス夫人、レノックス、ロッス、其他の貴族、貴婦人又び侍者ら出て來る。

マクベ　（バンコーに目を着けて夫人に）こゝに肝腎のお客人が居られた。

夫人　あの方が見えないでは、折角の祝宴に大きな空所が出來たも同樣で、何もかも不體裁になりましたでせう。

マクベ　（バンコーに）今夜わたしどもは、一大祝宴を開く積ですから、君にもどうか御臨席なすつて下さい。

バンコ　御鄭重なお言葉で恐れ入ります。出席しろとお命じにさへなれば、是非とも仰せに從ひますのが、私の務でございます。

マクベ　此午後には何方へかお出かけかな？

バンコ　はい、出かけます。

マクベ　もしお出かけでなけりや、午後の會議に出て、意見を述べて貰ひたかつたのだが……君の意見をば、常に最も大切な、有益なものとしてゐるのだから。が、それはまた明日の事にしよう。……遠方へお出かけかな？

バンコ　只今から參つて、晩餐の頃までには、立歸る積でございます。馬の足搔が思ふ程でありませんと、一二時間夜に入るかも知れません。

マクベ　宴會に後れなさらんやうに。

バンコ　承知いたしました。

マクベ　聞けば、あの暴逆な同族どもは、英國と愛蘭國とに落留まつてゐるさうな、

さうして、父王を殘忍にも弑したことなぞは白狀せんで、却つて怪しからん拵へ事を言ひ觸してゐるさうな。が、その邊の事は、明日改めて話さう、協議を要する他の國家の重大事件と共に。急いで馬にお騎しなさい。さよなら、又晩にお目に懸らう。……フリヤンスも一しよかな？

バンコ　はい、一しよに參ります。では、もう時刻ですから。

マクベ　お騎りの馬が、强健で駿足であるやうに。ではその馬共の脊へ御兩所を委ねますぞ。さやうなら。……

バンコー入る。

夜の七時までは、めい〳〵隨意に、時を過すが可い。一段の愉快を以て、宴會を迎へるために、晩餐時刻までは、皆に離れてゐよう。それまでは、御機嫌よう！……

マクベスの外、殘らず入る。侍者一人殘る。

おい、一寸汝に用がある。例の奴等は控へてゐるか？

侍者　宮門外に控へてをります。

マクベ　こゝへ伴れて來い。……

侍者入る。

斯うしてゐるだけでは何にもならん、安心して斯うしてゐられなければ。……バンコーを怖しく思ふのには、深い仔細がある。奴の立派な性格に、先づ怖れざるを得ない理由が存ずる。第一、勇敢である。其不敵な精神に搗て加へて、其勇氣を巧く利用する智略にも秀でゝゐる。彼奴ほど、予が氣ぶつさく思ふ者は他にはない。予の守護神が、彼奴に逢ふと辟易する、恰どマーク・アントニーの守護神がシーザーを怕れたと言ひ傳へられたやうに。奴は、彼の女共が、初めて予を王と呼掛けた時分に、女共を叱つて、奴に對しても何とか言へといつた。すると女共は、豫言者らしく、奴を歷代

の王の先祖だといつて祝した。つまり、奴等は、予の頭上には實を結ばん王冠を載け、予の手には、やがて他人の手で採取らるべき子を生まん笏を握らせたのだ、予の血統は、一代限りで絶えるものとして。果して然うだとすると、予は、バンコーの子孫の爲に、此手を血で汚したのだ。奴等の爲に慈悲深いダンカンを殺したのだ。心の

平和の盃へ苦いものを注ぎ込んだのだ、只彼奴等の爲に。さうして予の此不死の靈寶を惡魔の有に歸せしめてしまつたのだ、彼奴等を王にするために、バンコーめの子孫を王にするために！　そんな事をする位なら、さア運命め、自分でやつて來い、汝か、己か、必死の勝負をしてくれう！……誰れだ？

侍者、二人の刺客を伴ひて出で來る。

（侍者に）戸口へ往つて、呼ぶまで控へてゐろ。……

侍者入る。

（刺客らに）打合せをしたのは昨日だつたなう。

第一刺　さやうでございます。

マクベ　ところで、予の言つたことを考へて見たか？　先年來汝達を不幸な目に逢はせたのは、汝等が誤解してゐたやうに、予の知つた事ではなくつて、彼れ

の爲たことだ。　その事は、昨日段々と話して、十分に證明した筈だ、汝達が、如何翻弄されてゐたか、如何はぐらかされたか、誰れが彼等の手先となつて働いたか、其他一切の事を明細に話して、「成程、これはバンコーの爲た事だ」と、假令魂が半分しか無い者でも、狂人でも、言はんけりやなるまいと思ふ程に、證明した筈だ。

第一刺　へい、拜承はりましてございます。

マクベ　それから、更に進んだ話をもした筈だ。　それが今日の會合の要點なのだ。汝たちは、之を打棄つておくほどに、堪忍強いのか？　汝たちを無法に抑へ附けて、墓穴へ押込んで、浮ぶ瀬もなくさせてしまつた彼の善人と其子孫との爲に、冥福を祈らうといふ程に、汝等は宗教心が深いのか？

第一刺　手前共だつても、人間でございます。

マクベ　さうさ、名簿面では汝たちも人間だらう。　獵犬でも、グレー・ハウンドでも、雑種犬でも、西班犬でも、野犬でも、尨犬でも、水犬でも、半狼でも、みんな犬といはれてゐるやうになう。　が、價格附の添へてある番組では、速い奴、緩い奴、機敏い奴、番犬、獵犬なぞと、潤澤な自然がそれ〴〵に賦ち與へた天性に應じて、特別な名前を得て、只一樣に書竝べる目錄から區別される。　人間とても然うだ。　さア、汝たちも、其價格附の番組に入つてゐるのなら、人間の最下級でないのなら、然うだと言へ。　さうすりや汝たちに、極密の用向を吩咐ける、それを吩咐通り行り果せれば、汝たちの仇敵を除くと同時に、予の信任を得て、寵用されることになる。　予は奴が生きてゐる限りは、病人同樣の有樣なのだ。

第二刺　御前、手前は、今まで世間から、酷烈く撲つたり撲かれたりしましたので、癪に障つてなりませんから、もうこれからは向う見ずに、何でも關はず、世間へ害をしてやらうと思つてゐるんでございます。

第一刺　手前も、運命めに引摺廻されて、不幸續きで厭倦しッちまひましたんで、此上はもう、一か撥かの運だめしをするより外に爲樣がないと思つてをります。

マクベ　ちや、バンコーが汝らの敵だつたといふことは分つたな。

二人　全く然うなのでございます。

マクベ　予の爲にも敵なんだ。しかも至極きはどい關係なので、彼れが一分間生きてゐれば、其一分間だけづゝ、予の急所に劍の鋭鋒が觸れようといふのだ。予は、公然予が命じたといつて、彼れを面前から逐ひ拂ふことも出來んことはないが、それをしちやならん仔細は、彼れにも予にも親友である者があつて、其手合の感情を害するに忍びない、いや、寧ろ自分で殺しておきながら、それを歎いて見せねばならんやうな關係なのだ。そこで汝たちに助力を乞ふのだ、種々重大な理由があつて、世間の者には此事を見せんやうにしなければならん。

第二刺　御前、如何な事でも、お吩咐の事を致しませう。

第一刺　よしんば命がけ……

マクベ　いや、性根は見えた。もう一時間と經たんうちに、待伏する場所をも、恰度事を行ふべき時刻をも、くはしく査べて指圖しよう、是非今夜、宮城から少し離れた處でやッつけねばならんのだ。予は全く無關係だといふ事を忘れてはいかんぞ。それから、彼れと一しよに……後腹の患んやうに手際よくしておきたいから……彼れの伴をしてゐる仲のフリャンスをも、彼奴の居なくなることも、親父同樣、予に取つちや必要なんだから、其暗擊の序にやッつけてくれ。退つて、とつくりと心を決ろ。又直に會はう。

二人　もう腹は決つてをります。

マクベ　すぐに又呼ばう。彼方で待つてゐろ。……

二人入る。

これで決つた。……バンコー、汝の靈魂が、萬一天堂へ行くものなら、今夜の中に、其方角へ飛ばなけりやならんぞ。

入る。

第二場　宮殿内の他の一室

マクベス夫人と一従者と出る。

夫人　バンコーは退出したのかい？

従者　へい、さやうでございます。が、又今晩戻つて來られます。

夫人　王へ申し上げな、御閑暇の際に、わたしが一寸申し上げたい事があると。

従者　かしこまりました。

従者入る。

夫人　何にもならない、みんな無駄になッちまふ、望は遂げたつても、滿足が得られなけりや。人殺しまでして、危惧な樂みしか得られない位なら、殺された當人になつた方が氣樂で好い。……

マクベス物思ひに沈みながら出て來る。

ま、如何遊ばしたのです！　何故いつも獨きりで、陰氣に考込んでばかりいらつしやるのです？　考へる其目的が亡なつた以上は、一しよに亡してしまはなければならないことをば、何故いつまでも育てるやうになさるのですよ？　療治の屆かない事は、放擲つてお置きなさるべきです。濟んだ事は濟んだ事です。

マクベ　蝮をやッつけながら、息の根を止めておかなんだから、奴の傷が治ると、生

中の事をした吾々は、又咬まれさうだ。あゝ、悸々して三度の食事をしたり、毎晩厭な夢に魘されて眠る位なら、萬物の組織も秩序も打毀れて、天も地も滅茶々々になつてしまへ！　心を拷問に掛けられたやうに、苦み悶えてゐる位なら、此望が遂げたい爲に大往生を遂げさせた其亡者と同じになつた方が優だ。ダンカンは今墓の中にゐる。定ない人生の熱病を了して、安樂に眠つてゐる。叛逆が爲し得る限りの災厄は爲し盡された。刃も、毒藥も、内亂も、外寇も、もう彼れを苦めることは出來ん。

夫人　さ、行きませう。……ねえ、貴郎、そんな嚴い顔をなさらないやうにして、愉快に、樂しさうにして、今夜の客をお饗應なさいまし。

マクベ　さうしよう。お前さんも然うして下さい。就中バンコーに氣を附けて、目でも言葉でも、特に彼れを優待するやうにして下さい。不安な境遇だ、國王たる身でありながら、斯ういふ阿諛の流れに身を浸し、顔を心の假面にして、本性を包み隠してゐなければならんやうでは！

夫人　さういふことは考へないやうにしなくちやいけません。

マクベ　あゝ、予の此胸の中は蝎の巣だ！　なア、お前、バンコーと其伴のフリャンスがまだ生きてるだらう。

夫人　ですけれど、いつまでも死なゝい父子でもありますまい。

マクベ　さ、まだしもそれが慰めだ。やッつけようと思へばやッつけることが出來る。だから陽氣にしておいで。蝙蝠が寂しく飛出し、甲蟲が、凄い魔女神に呼出されて、眠さうな羽音を立てゝ、夜の欠伸を促し顔に鳴渡る前に、容易ならん怖しい事が爲遂げられる筈だ。

夫人　え、と仰やるのは？

マクベ　ま、知らないでいらつしやい。ね、事が果ててから賞めて下さい。……目を掩ふ夜の暗よ、さア早く、慈悲心を起させ易い晝の優しい目を包んでしま

つてくれ。さうして、汝の殘酷な、目に見えん手で、予を蒼醒させる彼の大縛り繩を取除けてくれ、寸々に裂つてくれ！……だん〳〵暗くなる。鴉が塒へ急ぐ。白日を主とする善良なものが、悉皆首を垂れて眠りかける と、夜を專らにする邪な者共が、其餌食を得ようとて競ひ起つ。……（夫人に）さゝ、不審に思ひなさる筈だ、が、ま、沈着いておいでなさい。惡で始められた事は惡の力で以て堅固になる。……だから、さ、一しよにおいでなさい。

二人ともに入る。

第三場　宮城門前の苑

三人の刺客、いづれも覆面して、出て來る。

第一刺　（第三の刺客に向ひて）が、誰れが、吾達と一しよになれと吩咐けたのだ？

第三刺　マクベスどのが。

第二刺　（第一の刺客に）疑ふにや及ぶまいよ、吾達の吩咐けられた事、すべき事を、一々間違なく述べたんだから。

第一刺　ぢや、一しよにやんな。……（向うを見て）まだ西にや幾らか夕日の影がちらついてゐる。今頃は、夜に入つた旅人が、宿を取後れまいと、足を速める。そこで吾徒が待つてゐるお敵が近寄つて來る。

第三刺　や！　蹄の音が聞えるぞ。

バンコ　（奥にて）おい、炬火を與れ！

第二刺　ぢや、奴だ。招待を受けてゐる他の連中は、もう疾に參内しッちまつた。

第一刺　馬は彼方へ行くやうだ。

第三刺　一哩ほど彼方へ廻るんだ。彼男は、こゝから御殿の入口まで、徒歩で行く

のが定例だ、他の手合も然うだが。

第二刺　（向うを見て）炬火、〳〵々々！

バンコー出で來る、フリヤンス炬火を持ちて伴ふ。

第三刺　奴だ。

第一刺　しつかりしろ。

バンコ　（フリヤンスに）今夜は降りさうだな。

第一刺　やッつけろ。

三人一度にバンコーを襲ふ。

バンコ　あゝ、騙し打に逢つた！　フリヤンス、逃げろ〳〵、早く逃げろ、早く！此讐を復つてくれ。あゝ、畜生！

バンコー死す。炬火消える。フリヤンス逃げる。

第三刺　だれだ、火を消したのは？

第一刺　不可かつたか？

第三刺　一人しか殺れちやゐない。伜は逃げッちまつた。

第二刺　仕事の大切の半分をやりそこなつたなア。

第一刺　ま、とにかく往つて、したゞけの事を知らせて來ようよ。

三人とも入る。

第四場　同じ處　宮殿中の大廣間

大饗宴の準備に、大いなる食卓、其れを圍繞して夥多の椅子、よき處に王及び王妃の座席。マクベス、同じく夫人、何れも盛裝して、ロッス、レノックス、其他の貴族、侍者等を從へて出て來る。

マクベ　諸君は各自身分を御存じの筈だ。さ、着席して下さい。隅から隅まで、一しよに御挨拶します、善くこそ來て下すつた。

貴族等　ありがたうございます。

マクベ　わたしも同席して亭主役を勤めませう。女主人は、まだ妃の座に着いたまゝでゐるが、いづれ好い頃に、御挨拶させませう。

夫人　わたくしの代りに、どうぞ御挨拶して下さいまし、心では、十分皆さんを歡

迎してをりますから。

貴族等、之を聽きて恭しく敬禮する。同時に第一の刺客一隅の扉を少しく開きて顔を現す。

マクベ　(夫人に)御覽、一同が心底喜んで、お前に答禮をしてゐる。……

此中に一同大食卓の兩側に着席する。マクベスも同じ食卓に近づきて

兩方平等だね。わたしは此眞中に坐らう。寛いで歡を盡して下さい。今に大盃で、萬遍なく健康を祝し合ふことにしよう。……

そしらぬ振にて扉口に近づきて

(第一刺客に)顔に血が附いてゐるぞ。

第一刺　ぢや、バンコーの血でございます。

マクベ　(獨語のやうに)彼奴が内に來てゐるよりは汝が外に來てゐる方が優だ。……行

ッちまつたか？

第一刺　御前、喉笛を掻切りました。　手前が行つたんでございます。

マクベ　汝は人殺しの大達人だ。　が、フリヤンスを片附けた奴も偉い奴だ。　それも汝が行つたのなら、汝は無類の名人だ。

第一刺　御前、フリヤンスは逃げッちまひました。

マクベ　ちや、また不安が起る。　彼れをやッつけてしまへば、予は最早大理石のやうに大丈夫に、磐石のやうに堅固に、此周圍の太氣のやうに自由な博大とした心持になることが出來たものを。　それが狹い處へ押込められて、禁錮されてゐなければならん、煩い疑惑や恐怖の爲に縛られて。……が、バンコーは大丈夫か？

第一刺　大丈夫でございます。　頭に二十ケ所の大創を受けて、溝の中に臥てゐまさ、最ち小さいのだつて致命傷です。

マクベ　御苦勞、々々々。　ちや、親蝮は死んちまつた。　逃げた子蛇は、早晩蝮にやなるだらうが、さしあたり牙に毒を有つちやゐない。……退れ。　明日又改めて話をしよう。

第一刺客入る。

夫人　御前、あなたはお歡待を十分に遊ばさんぢやありませんか？　すべて饗應は、饗應してゐる間中、繰返し〳〵歡待の情を口にしてゐないやうでは、儀式的になつてしまひます。　只飲食するのならば、自宅が最ち善いのが本來でせうから、他家での食事には、是非歡待といふ添味がなくてはなりません。　それが無ければ、宴會は殺風景でございませう。

マクベ　よく氣を附けて下すつた！……さア〳〵、存分に飲食して、十分に消化して下さい、さうしてます〳〵健康になつて下さい！

レノク　どうぞ、陛下にも、お着席下さいますやうに。

此時バンコーの亡靈、血に染みたまゝにて、何處よりともなく出で來りて、マクベスの掛けゐとする椅子に掛ける。　マクベスはまだ心附かずにゐる。　此亡靈はマクベス以外の者には終まで見えぬ體なり。

マクベ　これで、あのバンコーさへ來てくれられゝば、國中の名族は、悉く一室内に集つた譯なのだが、何卒、あの仁の見えんのは、何か凶變があつた爲ではなく、不實な男だなぞといつて、吾々が非難するやうな理由で、來られないのであれば可いが！

ロッス　お約束いたしておきながら、缺席いたしますのは不都合でございます。……失禮ですが、どうか陛下にも、お着席を願ひたうございます。

マクベ　（席を見渡して）席は一ぱいぢやないか？

レノク　こゝにお席が取つてございます。

マクベ　何處に？

レノク　こゝにございます。……

此時はじめてバンコーの亡靈と顔を見合せ、マクベス駭きて棒立になる。

マクベ　如何遊ばされたのございます？

貴族等　（指して）だれが如是なことをしたんだ？

マクベ　へえ？　何でございます？

（バンコーの靈に）よもや予が爲たとは言へまい。　そんなに血みどろの頭髮を掉り立てるな。

ロッス　諸君、お起ちなさい。　陛下は御不例のやうです。

夫人　（急ぎ人々を制して）いゝえ、お掛けなさい、皆さん。　折々斯ういふことはあるのです、幼い時分からです。　何卒席に着いて下さい。　發作は一時の事で

す。すぐ回復りませう。あんまり皆さんが目をお附ですと、尙と機嫌がわるくなつて、惱亂が長引きます。見ない振をして物を食つて下さい。……（マクベスの傍へ立寄りて、小聲にて）あなたは男ぢやないの？

マクベ　いゝや、男だ、しかも大膽な、惡魔だつて怖れ戰くやうなものをすら見つめてゐる男だ。

夫人　（小聲にて皮肉に）おや、ま、お立派だことね！　そりや貴郎の臆病心が見せる畫姿ですよ。ダンカンの寢所へ貴郎を御案内したとかおつしやつた空な短劍と同じものですよ。ねえ、そんなものに慄えるのは、怖るにも事を缺いて、贋物です、冬の爐の傍で、女子供が、お祖母さんの保證附で話す怪談なんかにこそ似合つてゐます。何故そんな顏をなさるんです？　つまる所、只椅子を睨んでいらつしやるんぢやありませんの？

マクベ　（指して）そこを見て下さい！　御覽！　そら、そこを！　そら如何だ！……

なに、何關ふもんか？　點頭くことが出來るなら、物を言つて見ろ。潮や墓穴が、一旦埋葬したものを又出してよこすやうだと、鳶の胃袋を埋葬所に代用した方が可い。

亡靈消える。

夫人　え、正氣をなくしておしまひなすつたの？

マクベ　（やうやく我に復りて）こゝに予が立つてゐるのが確かなら、確かに見た。

夫人　ま、馬鹿なことを！

マクベ　血は今までに屢〻流された、社會を盪滌する仁義の法律が、いまだ制定せられなんだ太古には、屢〻血が流された。いや、それから後とても、聞くさへも怖しい虐殺が行はれた。だが、昔は、腦醬が地に塗るれば、人間は死んで、それで事が終るのであつたが、今は、頭に二十ヶ所の致命傷を受けながら、又起上つて來て、人を椅子から排除けようとする。虐殺の奇怪なより

もそのはうがずつと奇怪だ。

夫人　あなた、皆さんが先刻から待兼ねておいでゞす。

マクベ　（我に復りて）あゝ、然う〳〵、どうか諸君、氣に掛けて下さるな。わたしには妙な持病があるのです、知つてゐる人達には何でもないのだが。……さアさア、諸君の健康を祝さう。ぢや、席に着かう。……さ、酒を持て。滿々と注げ。滿堂の諸君の爲、又、こゝに居られん予の親友バンコーの爲に、慶賀の盃を擧げる。あゝ彼の仁がこゝにをると好いのに！　諸君の爲及び彼の仁の爲に、乾杯する、一同の萬福を祈りますぞ。

貴族等　ありがたく御祝盃をいたゞきます。

亡靈又出る。

マクベ　（亡靈に）退れ！　目通を避けろ！　地の中へ入ッちまへ！　汝の骨には髓が無く、汝の血は冷く、汝の目には物を見る力は無い筈だのに、じろ〳〵見つめてゐる。

貴族等駭きて又席を起たんとする。

夫人　（人々を制して）皆さん、あれは只ほんの癖だと思つて下さい。全く然うなのですから。只、折角の興を醒まして、まことに。

マクベ　（亡靈に）人の敢てすることなら、何でもする。すさまじいロシヤ熊の姿で來い、角の生えた犀なり、ヒルカニヤの虎なりの姿で來い。其姿さへ止してくれゝば、此堅固した筋肉が假にも慄へるやうなことはないのだ。でなくば、生返つて來て、荒地で眞劍勝負を挑め。其時若し慄へて引籠つてゐるやうだつたら、予を小娘の人形だと惡口しろ。退れ、怖しい影め！　空な僞物め、退れ！……

亡靈消える。

あゝ、去ッちまつたな。去ッちまひさへすりや、もう大丈夫だ。……（貴族ら

に向ひて）どうか、席にゐて下さい。

夫人　あなたが大變に奇異な、取亂した樣子を遊ばしたので、折角の宴會の興がさんざんになつてしまひました。

マクベ　あゝいふものが、夏の夕立のやうに押覆つて來るのに、驚き怪まないでをられるか？　實にわたしは、自分で自分を異む程に駭かざるを得ない、君たちが彼物を見ながら、どうして平氣で……わたしは怖しさに眞蒼になつてゐるのに……頰の赤みを失はんでをられるかと思ふと。

ロッス　何を見て、とおつしやるのでございます？

夫人　どうぞ何にも言はないで下さい。だん〳〵樣子がわるくなる。問答をすると、尙激します。……すぐお開きにしませう。退席の禮儀なんぞには關はないで、さ、すぐにお退んなさい。

レノク　さやうなら。陛下の速かに御全快遊ばされますやう！

夫人　では、どなたも御機嫌よう！

マクベスと夫人との外皆入る。

マクベ　血を流したがつてゐるのだ。血を流した者は血を流したがるといふ言ひ傳へだ。石が動き、木が物を言つた例もある。占者が、豫て知られてゐる相關の理法によつて、鵲や脚赤鴉や白嘴鴉を使つて、巧みに隱し果せてゐた殺人罪を發見したことがある。……もう何時だ？

夫人　もう、夜だか、曉方だか、分らない時分です。

マクベ　お前どう思ふ、來いと命じたのに、マクダッフが斷つたのを。

夫人　使者をおやりになつたの？

マクベ　いゝや、間接に聞いたのだ、いづれ使者も遣らう、が、だれの邸にも一人ぐらゐは予が買收しておく家來のをらん處はない。……予は、明日早朝に、例の巫女の許へ往つて、もつと詳しく將來を言はせることにしよう、斯うな

つた以上、どんな惡い手段を行つても、どんな惡い事までも知りたいと思ふから。自分の利益の爲に、もう何もかも犧牲にするんだ。血の河の中へ、斯う深く踏込んでしまつて見れば、渉り果せるより外に爲樣がない、今更戻らうたつて、道程は同じやうに困難だ。變な物が、此頭の中に在る、今に手へ傳はつて來さうだ。それをすぐ實行せずにやをられん。ぐずぐず調査べたり何かしちやをられん。

夫人　（心配さうに）あなたには、生に必要な眠りといふ保養が不足してゐます。

マクベ　さ、寢ることにしよう。妙な幻影を見たり何かするのは初心で臆病なからだ、鍛錬しなけりやならん。惡い事にかけてまだ幼稚なのだ。

入る。

第五場　荒れ地

雷鳴。三妖巫出て來りて寃女神ヒカトに行き逢ふ。ヒカト不興の體なり。

第一妖　おや、ヒカトさん、如何なすつてね！　怒つてゐなさるね。

ヒカト　怒らなくつてよ。なんぼ汝等が圖々しい恥知らずだからつて、よくもマクベスに謎なんか勝手に掛けて、人間の生死に關した事を取引したね？　汝等の師匠でもあり、一切の禍厄の元締でもある予に沙汰なしで、予に立派な通力を出させようともしないで。不都合はそればかりぢやない、助けちやならない男を助けたのだ。あの男は執念深い、意地くねの曲つた、酷い男なのだ、他の凡人と同じに、只自己が都合上で事をするんで、汝等の爲なん

か思ッちやゐないんだのに。……さ、其償ひをしな。　これから直出掛けて、アケロンの沼で、明日の朝予を待つてゐな。　あそこへあの男が、運命を知らうとてやつて來る筈だ。　いろんな器具や、魔藥や、呪符や、其他入用なものは、悉皆持つてッときな。　予はこれから空を飛んで行くんだ。　今夜一晩は凄い怖しい事に使ふんだ。　午前に、偉大い事をしなくッちやならん。弦月のあの隅ッこに、ある玄妙な蒸氣が溜つてゐる。　あれを、地上へ落ちないうちに取つて、魔術で蒸溜すると、不思議な幻影を現出させることが出來る、それに感動したりといふと、あの男、自分で自分を滅すのを關はないやうになる。　運命をも蹴飛ばす、死神をも侮蔑る、智慮も天恵も危惧も度外視にして、空な望を抱く。　さうなりや占たものだ。　ね、油斷は人間の大敵だらう。……

奥にて音樂と歌。「ごされ〳〵、云々〳〵」と聲を揃へて歌ふ。

おや！　呼んでるね。　あれ、見な、小ちやい精靈めが霧雲の中に座つて、予を待つてらアね。

ヒカト入る。

第一妖　さア、〳〵、急いでゆかうよ。　又直に歸つて來なさるから。

みな入る。

第六場　フォレス宮殿内

レノックスと一貴族と出で來る。

レノク　以上申した事は、只一寸お考に觸れたまでゝす、更に一歩を進めて御解釋下さることが出來ませう。　わたし共は只、どれも〳〵奇怪千萬な鹽梅式で

あつたと申すまでゝす。あの慈悲心の深いダンカン王のお亡なりになつたのをマクベスどのが哀悼される。其筈です、亡なられましたからね。それから、あの勇敢なバンコーは、夜に入つてまで歩いてをられた。で、或はフリヤンスが殺したとおつしやつてもよろしい、フリヤンスは脱走しましたから。うつかり夜歩きは出來ませんよ。え、誰れだつて奇怪千萬だと思はずにはをられますまい、あの慈悲深いダンカン王を殺したのは、マルコム、ドナルベインの二王子だつたのだから！　極惡非道です！　マクベスどのは怖しく慨歎せられました！　義憤の餘り、直ちに犯罪者二人を寸斷せられました、酒の奴隷となり、眠の奴隷となつた不埒者二人を。立派な處分ぢやありませんか？　いや、賢明な仕方ともいへませう。何故なれば、若し然うでないなぞと奴等が辯解するのを聞けや、だれだつて憤激せざるを得なかつたでせうからね。ですから、マクベスどのは、萬事巧くやられたといふのです。で、若し此上、あの二王子を取占めてしまひなさる段となると……それは天がお許しなさらんけりや出來ますまいが……二王子とも親殺してものは如何なもんだか、思ひ知られるでありませう。フリヤンスとても同樣です。……が、叱々！　何故とおつしやい、あのマクダッフは、あんまりぱつぱと喋舌つたのと僭主どの〻宴會へ參上しなかつた爲とで、日蔭者になつたといひます。あの仁は、何處へ僭んだか、貴下御存じぢやありませんか？

貴族　あの僭主に王位を奪はれたマルコムどのは、英國の宮中に迎へられて、あの聖人のやうなエドワード王の優遇を蒙つてをられます、薄運の爲に落魄れられたとはいへ、大いに人に敬せらるべき資格を具へてをられるので。マクダッフは、そこへ參つて、あの聖王に願つて、ノオサンバランド侯と其勇敢な子息のシワードとを呼起して應援せしめ、それによつて……神明の

冥助を頭に戴き……もう一度安心して食つたり眠たりする事の出來るやうに、又、饗應や祝典の席上から血腥い劍を取拂つて正當な忠義に正當な榮譽官職を得させるやうにしたいと努力してゐるのです、さうしてそれは總て、吾々一同の切望する所なのです。そこでマクベスじのは大いに腹を立つて、戰爭の準備に掛られました。

レノク　マクダッフへ使者を送られましたか？

貴族　送られました。ところが、斷然、「伺ひません」と答へたので、使者は、怖い顔をして、後を見ながら「こんな返辭を持つて歸らせるのを、今に後悔するぞ」といふらしく、何かぶつくさ言つたさうです。

レノク　すると彼仁は、智慧の及ぶ限り、遠方にをるやうに注意しなけりやなるまい。……あゝ何とかいふ天使さん、早く英國の宮中へ飛んで行つて、彼仁が往くよりも先に、其用を傳へてください　毒手に苦められてゐる此國へ、片

時も早く天福の戻つて來ますやうに！

貴族　わたしはその天使さんへ誠意の祈禱をことづけます。

二人とも入る。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊

第四幕

第一場　洞窟　中央に煮え立てる釜

雷鳴。三人の妖巫出で來る。

第一妖　虎班猫が三度鳴いたよ。

第二妖　蝙蝠が三度と一度鳴いたよ。

第三妖　妖鷲が呼ばつてるよ、もう恰好よ。もう恰好よッて。

第一妖　（歌ふやうな調子にて）

釜の周邊をぐる〳〵廻り、
抛込め〳〵、毒ある臓腑を。
蟇よ〳〵、冷たい石の、其下に、
三十一日、三十一夜、
眠込んで、汗して、毒泌る蟇よ、
煮えろ〳〵、呪釜で、先づ煮えろ。

一同

（ぐる〳〵釜の周邊を廻りながら）
苦勞も苦痛も、倍になれ、倍になれ。
くわッくわと燃えろ、ぶつ〳〵煮えろ。

第二妖

（やはり歌ふやうな調子にて）
沼蛇の大切肉、
釜の中で、煮えろ〳〵。

蝶螈の目の玉、蛙の指、
蝙蝠の羽の毛、犬の舌、
蝮の刺と盲蛇の刺と、
蜥蜴の脚と梟の翼と、
大わづらひの呪ひに、
煮えろ〳〵、ぶつ〳〵煮えろ、
地獄の雜水煮るやうに。

一同

（又廻りながら）
苦勞も苦痛も、倍になれ、倍になれ。
くわッくわと燃えろ、ぶつ〳〵煮えろ。

第三妖

（又同じ調子にて）
惡龍の鱗に狼の牙、

魔女の木乃伊に、大海原の
大慾鱶めの脛と咽喉、
暗の夜に掘つて來た毒草の根、
耶蘇を惡口した猶太人の肝の臓、
山羊の胆汁と月蝕の晩に
折つた楪の小枝と小枝、
土耳古の鼻と韃靼の唇、
辻娼が溝で生落し
直に縊つた赤子の指も、
雜水を濃くしろ、ぬる〳〵させろ。
も一つ虎の臓腑入れろ、
釜の内容を濃くするために。

一同　（又廻りながら）
苦勞も苦痛も、倍になれ、倍になれ。
くわッくわと燃えろ、ぶつ〳〵煮えろ。

第二妖　さ、狒々の血でそれを冷しな、
さうすりや呪ひは出來ッちまはア。

ヒカト出で來る。

ヒカト　おゝ、感心々々〳〵。御苦勞だつたね。此利益は、山分にさせるよ。さア〳〵、釜の縁を廻つて、歌ひな〳〵、子供や妖精が輪踊をする時のやうに、さうして内容に呪ひを利かせるんだ。

音樂と歌。「黑い精靈と白い精靈と、云々」といふ歌を唱ふ。

ヒカト物かげへ退く。

第二妖　指がぴく〳〵するとこを見ると、何か不正い者がやつて來るね。

開けよ門の戸！
誰が叩ことも！

マクベス出で來る。

マクベ　おい、こら、深夜に内密で、物すごい事をする婆アども！　何をしてゐるのだ？

一同　名のない事をしてるんぢや。

マクベ　汝達は、どうして豫言するか知らんが、果して豫言する通力が有るなら、予が懇願する、返答してくれ。　よしんば其爲に風が釋放されて、寺々をさへ震動さする大颶風が起らうと、怒濤が捲起つて船舶が呑込まれようと、穀類が莢から叩散されようと、樹木が吹倒されようと、城塞が番兵の頭の上へ顚覆らうと、宮殿や三稜塔が土臺へ傾がうと、破壞其者さへも倦厭してしまふ程に、貴い萬物の種が悉皆ごッちやになつてしまはうと、關つた

事はない、予が今訊ねることに返答してくれ。

第一妖　お言ひなさい。

第二妖　お訊きなさい。

第三妖　答へませう。

第一妖　わしらの口から聞きなさるかね、師匠たちの口から聞きなさるかね、どつちだね？

マクベ　師匠とやらを呼んで、予に會はせろ。

第一妖　さア〳〵、注ぎ込みな、子豕を九疋食つた豕の血を。　それから火の中へは、絞罪臺から滴れ落ちた、あの殺人犯の脂肪を。

一同　さア〳〵、お出やれ〳〵、高いのでも、卑いのでも。　出て來て、手練をお見せ。

雷鳴。　第一の幻像として、兜を被れる首せり出しにて現れる。

マクベ　やい、汝は、如何いふ魔神だか知らんが……

第一妖　お前さんの肚は知つてるよ。聽いてりや可いんだ。口をきいちやいけない。

第一幻　マクベスよ！　マクベスよ！　マクダッフに警誡しな。ファイフの領主に警戒しな。暇をくれ。もう是れで可い。

幻像せり下る。

マクベ　何者だか知らんが、好忠告をし

てくれた、有難う。汝は予の内々恐れてることを言ひ中てた。が、もう少し聞きたいことがある……

第一妖　命令しようたつて駄目だよ。そら、他のが出て來た、今のよりも一層偉いんだ。

雷鳴。第二の幻像として、血まみれの小兒、せり出しにて現れる。

第二幻　マクベスよ！　マクベスよ！

マクベ　耳が三つあつたつても聽いてゐるぞ。

第二幻　思ひ切り酷く、大膽に、勇敢に行んなな。人間の力なんか關ひなさんな。女に生落された者で、マクベスを害し得る者はないんだ。

幻像せり下る。

マクベ　ではマクダッフ、生きてゐろ。汝を恐れる必要はないやうだ。が、念の爲に、運命から證文を取つておかう、汝の息の根を止めてしまはう、予の臆病

な根性を叱りつけて、雷が鳴らうと、平氣で眠てをられるやうにするために。……

雷鳴。第三の幻像として冠をかぶれる小兒、手に木の枝を持ちてせり上る。

一同　ありや何だ、王の子らしい樣子をして、其小さい額の上には、主權者たる標章の金の輪を附けて、浮上つたのは？

第三幻　聽いてゐなさい、口をきいちや不可い。獅子の心になつて傲然としてゐな。だれが怒らうと、むづからうと、謀叛を企まうと、關ふな、マクベスは、あの大きなバーナムの森が、ダンシネーンの高い丘の上へ、攻寄せて來ないうちは、戰に負けるといふことはないから。

幻像せり下る。

マクベ　そんな事はあらう筈がない。だれが森を徵發することが出來よう、地に生え著いてゐる木をだれが動し得るものか？　愉快な豫言だ！　絕妙！　叛逆の頭は、バーナムの森が持上るまでは、決して持上らないとすると、高御座にゐるマクベスは、天然の期限だけ、式の如く年々歲々吐く息を支拂つて、生延びることが出來る譯だ。だが、まだ一つ聽きたくて堪らんことがある。こら、此事も汝の力で告げられるなら言へ……バンコーの子孫が此國に君臨することがあるのか？

一同　もう聽かうとしなさんなよ。

マクベ　是非聞かせてくれ。否だといふと、汝らに永久の天罰が下るぞ！　さ、知らせろ。……

釜、地中にせり下る。木笛の聲何處ともなく聞ゆる。

や、何故釜が沈むんだ？　あの音は何だ？

第一妖　お見せ！

第二妖　お見せ！

第三妖　お見せ！

一同　お見せよ彼仁の目に、さうして澤山泣かせてやるが可いやね。影のやうにして出て來て、さうして消えておしまひ。

王の服裝したる者八人、徐かに列をなして出で來る。最後の一人は手に鏡を携へてゐる。バンコーの亡靈其後につゞく。

マクベ　汝はバンコーの幽靈に似過ぎてゐる。退れ！　汝の冠の光で此目玉が燒ける。……お、すぐ後から、同じやうに金の冠をかぶつて來る奴の面も、前の奴に似てゐる。……三番目のも、やつぱり似てゐる。……うぬ、惡婆どもめ！何故こんなものを見せやがるんだ？……四番目！……目の玉め、いつそ飛出してしまへ！……や、こりや何處まで續く？　審判日の霹靂まで續くのか？　……まだ來る！……七番目！……もう見んぞ。……まだ八番目が出て來る、鏡を手に持つてゐて、尙幾らも來るのを見せてゐる。中には、玉を二つ、笏を三本持つてゐるのが見える。あゝ怖しい現象だ！……ぢや、いよ〳〵さうだな、血みどろのバンコーが此方を向いて、にや〳〵笑つて、己の子孫だといふらしく指ざしをしてゐる。……

幻像消える。

第一妖　（妖巫らに）え、いよ〳〵斯うなのか？

はい、全くさうなのです。が、何故マクベスどのはそんなに茫然してござらつしやりますす？……さア〳〵、みんなであの人を慰めて、面白いものを見せてやらうよ。おいらは空氣に呪ひをして好い音をさせるから、お前たちは變妙な踊をおはじめ、此王さんが、わしらが善くお務して、御好意に報いたと言はつしやるやうに。

音樂。妖巫ら踊りつゝ、ヒカトと共に消ゆる。

マクベ　何處へ去つたか？　去ッちまつたらしい！　あゝ此可厭な日は、永久に暦の中の不祥日にすべきだ！……おい〳〵、外にゐる者！

レノックス　出る。

レノク　何か御用でございますか？

マクベ　妖しい巫女どもを見ましたか？

レノク　いゝえ、見ません。

マクベ　君の傍を通らなかつたかい？

レノク　いゝえ、何も通りませんでした。

マクベ　彼等らの乘る空氣は病毒の巣となッちまへ、彼等らを信ずるやうな奴らは、地獄に墮ッちまへ！……馬の駈けて來る蹄の音が聞えたが、だれが來たのだ？

レノク　あれは、三人の者が、マクダッフが英國へ脱走しましたことをお知らせに參つたのでございます。

マクベ　英國へ脱走した！

レノク　さやうでございます。

マクベ　（傍白）「時」よ、折角の予の凄い仕事が、汝の爲に、先を折られてしまつた。目論見が、如何に飛ぶやうに先へ往つても、實行が附いて行かなければ、追附かれずじまひになつてしまふ。將來は、心で生むや否や、手でも生むやうにしよう。さうだ、斯う言ふ今直、思想に實行を伴はせるために、考へる、すぐに行ふことにしよう。マクダッフの居城を不意に襲はう。ファイフを乘取つて、あれの妻、子供及び彼れの血縁に繋る不運な奴らは、悉く劍の刃に掛けてくれう。愚人のやうに、口でばかり言ッちやをらんぞ、すぐに、目論見の冷却せんうちにやッつけッちまふ。……もう變な物なんか見ん

ぞ。……(レノックスに)其士どもは何處にゐるんだ？　さ、ゐる處へ案内してくれ。

二人とも入る。

第二場　ファイフ　マクダッフが居城内の一室

マクダッフ　夫人、幼き其一子及び親戚ロッスの領主出で來る。

夫人　ま、夫は何をいたしたんで、脱走なんかしたんでせう？

ロッス　奥さん、まゝ、落著いていらつしやらなくちや不可せん。

夫人　いゝえ、落著いてゐないのは夫です。　脱走するなんかは、狂氣めいてゐます。何も惡い事をしない者が、臆病でおど〳〵した爲に、謀殺人と見做されることがあります。

ロッス　お逃なすつたのは、智慧分別の結果だか、臆病だか、まだ分りませんよ。

夫人　分別の結果ですッて！　妻をも子をも家をも權利をも打棄つておいて、脱走するのが？　夫はわたし共を愛さないのです。人情がないのです。あの憫な、小ちやい〳〵鷦鷯でさへ、巣に雛がゐれば、梟とでも戰ふぢやありませんか？　みんな臆病からです、少しも愛情がないのです。分別だつてあらう筈はない、まるで理に外れた逃げ方をしてゐるのですもの。

ロッス　まア〳〵、奥さん、氣を鎮めて下さい。御主人は立派な、賢明な、目の高い人ですから、最も善く時勢の發作を知つてをられます。是れ以上は、今はわたしには言へない。とにかく甚い時代です、吾々は謀叛人にされてゐるのだが、自分では知らない、不安に感ずる所から噂を信ずるもの丶、如何用心したら可いか分らないで、荒海の上を、只あつちこつちと漂つてゐるの

です。……お暇いたします。　いづれ又程なく伺ひませう。　凶極まれば止む か、でなければ、前の位置へ向上することになりませう。……（幼き子に）可愛い坊さん、はい、御機嫌よう！

夫人　この子は、お父さんがありながら、無いのです。

ロッス　わたしは愚人だ、此上長居をすれば、自分は恥をかいた上に、貴女を困らせるやうなことになりさうだ。　すぐお暇します。

ロッス　入る。

夫人　（幼き子に）これよ、お前さんのお父さまは死んじまつたのよ。　お前さん、これから如何しようといふの？　どうして生きてゐようといふの？

一子　鳥のやうにして生きてるの。

夫人　え、ぢや蛆や蠅を喰べて？

一子　何でも取れるものを取つてよ。　鳥は然うするわ。

夫人　可愛さうに！　お前さんのやうな鳥は、網も黐も穽も羂も怖がらないだらうね。

一子　何故怖がるの？　可哀さうな鳥なんかに、だアれもそんなもの掛けやしないでせう。　お父さまは死にやアしないや、お母さまそんなことい つたつて。

夫人　いゝえ、亡なりましたの。　お父さまの無いのを如何するの？

一子　いゝえ、母さまは如何するの。且那さまのないのを？

夫人　なアに、町へ往つて、十人も二十人も買つて來ますのよ。

一子　ぢや買つといて、賣らうてんでせう。

夫人　ま、有ッたけの智慧を出してさ。　けれどもお前としては旨いことをいふわね。

一子　お父さまは謀叛人、え、母さま？

夫人　あい、さうなのよ。

一子　謀叛人といふのは何？

夫人　さうね、堅い約束をしといて、それを破る人なの。

一子　さういふことをする人は、みんな謀叛人？

夫人　あい、さういふことをする人は、みんな絞罪といつて、絞殺されなけりやなりません。

一子　約束をして破つた者は悉皆？

夫人　悉皆。

一子　だれが絞殺すの？

夫人　そりやお前、正直な人がさ。

一子　ぢや約束を破つてそんな目に逢ふ奴は馬鹿だ、だつて嘘吐いたり約束を破つたりする奴で、幾らも正直者を撲つたり絞殺したりする奴があるもの。

夫人　まア、どうしたらよからう、此兒は！　だが、お前、父さまの無いのを如何するの？

一子　父さまが眞個に死んだのなら、母さまが泣くでせう。若し泣かなけりや、もう直に新しい父さまが出來るんでせう。

夫人　ま、此お饒舌さんの言ふことは！

此時使者役出で來る。

使者　奥さま、初めてお目にかゝります！　お見知はございますまいが、お身分柄を、手前は善う存じてをります。御危難がお身に逼つてをるやうに存じますから、手前如きの申すことをお採用下さいますなら、早速お小さいのをお伴れ遊ばして、此處をお立退なさいまし。こんなにお駭かし申すのは亂暴過ぎるとは存じましたが、それ以上の事がお身に逼つてをるのを打棄ておくのは非義非道だと存じましたのです。天がお護りなさいますやう

に！　もう片時も猶豫しちやをられません。

急いで入る。

夫人　何處へ逃げよう？　惡い事をした覺えはない、けれども人間界に住んでゐるのだ。此世では惡い事をするのが、どうかすると、却つて賞められ、善い事をするのが、危險な、馬鹿な事とせられてゐる。して見りや、惡い事をした覺えはないなんて、女の分疏をしたつて何にならう？……

刺客役數人出る。

第一刺　おや、あの顔は？

夫人　御主人は何處にゐます？

第一刺　よもやお前たちが見附け得るやうなそんな汚はしい處にやゐますまいよ。

一子　御主人は謀叛人ですぞ。

第一刺　嘘を吐け、此毛むくじやらめ！

一子　何だと、此卵めが！……

幼き子を刺す。

夫人　謀叛人のお玉じやくしめ！

一子　あれい、母さま、お逃げよう、お逃げよう！

夫人「人殺し！」と叫びつゝ入る。それを追うて刺客らも入る。

第三場　英國　英王の宮殿の前

マルコムとマクダッフと出て來る。

マルコ　何處か人の居ない處を搜して、そこでお互ひに胸の晴れるまで泣きませう。

マクダ　寧ろ殺人劍を握つて、勇士らしく、顚倒してゐる祖國の擁護に力めませう。新らしい朝の來る毎に新らしい寡婦が殖え、泣き叫ぶ孤兒が殖え、慟哭の聲が天の面を撲つので、天も、スコットランドに同感したかのやうに、同じ悲しい調子で、反響してゐます。

マルコ　信ずれば歎きもしようし、知れば信じもしようし、又救ふことが出來る限りは、時節が到來すりや、救ひもしませう。君の言はれた事は、多分事實でありませう。名を口にしたばかりでも、舌が水腫になりさうな彼の暴君も、

嘗ては君子のやうに思はれてゐた。現に君も彼れを敬愛してをられた。彼れも君にはまだ手を觸れなかつたぢやないか？　わたしは弱輩者ではあるが、利用なされば、君が彼れに取入る役には立つかも知れん。怒つてゐる神を鎭めるために、弱い、罪のない、不便な羊を犧牲にするのは、聰明な處置です。

マクダ　私は二心を抱いちやをりません。

マルコ　が、マクベスは抱いてゐます。立派な人格も、帝王の威權を以て命令せられると、横へ逸れ易いものです。併し御免なさいよ。君の本性は、わたしが如何疑つたからつて、わるくならう筈はない。天使は永久に光り輝いてゐる、假令第一等の天使が墮落して其光輝を失つたからつて。いかに汚い者が顏ばかり美しく粧ふ世の中だからつて、美はやはり美な顏をしてゐるより外に爲樣はない。

マクダ　（歎息して）私は失望してしまひました。

マルコ　わたしが疑を抱くに至つた其點が、或は君の失望を招いたのでせう。何故君は妻子を、人情の貴重な動機を、其強い結節を、暇乞もしないで、敵の手に委ねて來たのです？　わたしに疑はれたからつて侮辱されたんだと思はないで下さい、これは自衛に過ぎないんだから。實際君は正しい人なのでせう、わたしが如何思はうとも。

マクダ　（歎息して）あゝ血を流せ〳〵、不幸な國土よ！　大暴政よ、基礎を固めろ、美德も汝を抑止しようとは能しないのだから。勝手に横道を働け、汝の權利は認められたんだ！……御機嫌よろしう。私は、よしんば彼の簒奪者が握つてゐる全土に、搗て加へて、東方の富國を貰つたからつて、貴下が思つていらつしやるやうな惡漢にならうとは思ひません。

マルコ　腹をお立ちなさるな。わたしは、必しも君を疑つて斯ういふのぢやない。

わたしだつて、木國が軛で壓へ附けられてゐるのを思はんことはない。本國は泣いてゐる、血を流してゐる。毎日古創の上へ、又新らしい創が加へられる。それからわたしの爲に、臂を揮つてくれる者のあることをも思ふ。任俠な英國王からは、數千人の援兵を送らうといつて來てゐる。それにも係らず、予が彼の暴君の首を脚下に蹂躙し、又は劍に貫く段となつたら、憫むべき我國家には、以前に勝る種々の弊害が發生し、繼いで立つた君主の爲に、更に多くの、更に複雜な難儀を蒙ることになるであらう。

マクダ　其君主といふのは誰です？

マルコ　といふのはわたしです。わたしには、ありとあらゆる惡德が植附けられてゐるのだから、それが發展した日には、あの眞黑なマクベスが雪のやうに白く見え、憫な國家は、彼れを小羊のやうに思ふでせう、わたしの害惡の限りの無いのに比べると。

マクダ　いや〳〵、地獄の惡魔群の中にだつて、マクベス以上の、無慚な惡魔があらう筈はありません。

マルコ　わたしとても彼れは殘忍で、女好きで、慾が深くて、不義不信で、一轍短慮で、意地が曲つてゐて、苟くも名の附く限りの罪惡の臭ひのする男だと認めてゐる。けれども予の好色と來ては底が知れない。人の妻、人の娘、已婚者、未婚者の數を盡しても、予の邪淫の水溜を充すには足るまい。予の色慾は、其意志に反抗するあらゆる障礙を壓倒するんだ。そんな者が君主になるよりはマクベスの方が優でせう。

マクダ　限りのない生得の不節制も一の惡政には相違ありません。それが爲に、幸福な王座が、屢〻時ならずして顚覆し、幾多の王者が滅びました。が、何も正當に貴下の有たるべきものをお取りなさるのを、御懸念なさるには及びません。十分にお樂みなさりながら、表面は冷かげにお見せなすつて、さ

うして世間の目をお眩しなさることも出來ます。喜んで御意に從ふ女が幾らもあります。如何に貴下が角鷹のやうでお在んなさらうと、思召を察して、自ら進んで御意に應じようとする女だけをも、召食り盡すことは出來ますまい。

マルコ　それにまた予は、極めて宜しくない生得で、慳くことを知らない程に、慾が深いから、王になりや、其領地の欲しさに、貴族共の首を切りもしようし、甲の寶石を欲しがつたり、乙の邸を欲しがつたりするだらう。さうして得れば得るほど、それが慾心を增長させる緣になるばかりであらう。無法な喧嘩を、無理に忠誠な者にも吹掛けるであらう　其財產を奪ひたいばつかりに。

マクダ　貪慾の方は、夏に似た色慾よりも根が深く、又有害なことも一倍で、古來夥多の國王を殺した利劍であつたのです。が御心配なさるな。スコットラ

ンドよ、貴下の御所有に屬するだけでも、十分お望を充すに足るほどに豐かです。すべてさういふ御缺點は忍耐が出來ます、他に善い點がお在んなさりますから。

マルコ　ところが、わたしには善い點が一つもない。彼の王者らしい諸德、卽ち公正とか、眞實とか、節制とか、鞏固とか、寛大とか、不撓不屈とか、慈悲とか、謙遜とか、敬虔とか、堪忍とか、勇氣とか、剛毅とかいふものは、予は毛ほども有つてゐなくつて ありとあらゆる罪惡の斷片をば、十二分に具へてゐて、而もそれが縱橫に働くのです。さやうさ、若し權力を得りや、樂しい平和は、之を悉く地獄に葬り、世界中の安寧を攪亂し、地上の一切の一致を叩き毀してしまふだらうよ。

マクダ　（長太息して）あゝスコットランドよ、スコットランドよ！

マルコ　さういふ人間が君となつて國を治めるに適するでせうか？　予は全く然

ういふ人間なんだ。

マクダ　國を治めるに適するどころか！　生きてゐるにすら適しません。あゝ血まみれの笏を握る簒奪君主に支配されてゐる淺ましい國民よ、おのしは何時になつたら、また安らかな日を見るであらう？　おのしの國の正しい王嗣たる御當人は、自分で自分に罪名を下して、おのが血統を侮辱してゐなさるんだから。……御父上は聖人のやうなお方でしたぞ。又貴下をお生みなされたお妃は、立つていらせられるよりも跪いていらせられる方が多い位の方で、毎日半死の苦行をなされた。……さやうなら！　貴下が夥しい惡德を有つてゐるとお自白なすつたので、私は最早スコットランドを去るより外に爲樣がなくなりました。あゝ我胸よ、汝の望は最早絶えたぞ！

マクダッフ　胸を撲つて　歎く。

マルコ　（やうやく信じて）マクダッフどの、正直な心から生れる其高潔な悲歎は、予の心

の僻みや疑ひを拭ひ去つて、君の誠心と君の正義とを信ぜしむるに至つた。實は、あの惡魔のやうなマクベスめが、今まで種々の僞計を以て、予を陷れようと試みたんで、勢ひ輕々しく人を信じないやうに警戒せざるを得なかつたのです。　が、神よ、願はくは吾々二人の間に、斡旋の御勞を取らせられませ！　斯ういふ卽刻只今から予は君の指圖を受けます、先刻自分に對して言つた事は悉皆取消す、先刻竝べた過失や惡德は予の性質には無いことなのです。　予はまだ女と關係したことはない、曾て僞誓したこともない。自分の有でない物を欲しがつたことも幾んどなければ、つひぞ約束を破つたこともなく、惡魔をだつて其仲間にすら賣らうとは思はない。　誠實を愛することは生命を愛するのに劣らない。　予が嘘を吐いたのは、今日が始めてなのです。　予の本性は君の命のまゝです。　實は、君が來られる前に、叔父シワード將軍が、一萬人の勇兵を徵集し、それを率ゐて、已に本國へ出發しました。　さア一しよに事を謀らう。　願はくは我名分の堅實である如くに、成功の機會も亦た堅實であるやうに！……何故默つてゐるのです？

マクダフ　善い事と惡い事とが斯う一しよくたに來ては、調和させるのが困難です。

マルコム　（マクダフに）なるほど。……

醫師（英國王の侍醫）出て來る。

醫師の來りしを見て）なほ後ほど。……（醫師に）王はお出ましですか？

醫師　さやうでございます。　お療治を戴かうとしてをりまする憫れな輩が多勢參つてをります。　彼等の病ひには、如何に名譽の醫術も功を成しませんのですが、陛下がお手に觸れさせられゝば……さういふ靈力を天からお授りになりましたのですから……彼等は直囘復いたします。

醫師入る。

マクダ　如何いふ病ひなのでございますか？

マルコ　王の病と呼びならはしてゐる。英國へ來て以來已に屢〻目擊したことだが、彼の仁君の最も不思議な事業なんだ。如何天を祈つて、あゝいふ靈力を得られたか知らんが、奇怪な病に惱む輩を、見るも氣の毒な風に、すつかり腫れて、膿爛れて、醫師も匙を拋げたやうなのを、王は、誠心を籠めた祈禱をして、同時に其病人の頸元へ金貨を一つ掛けてやられると直治る。噂によると、王は、此有りがたい治療力を其子孫にも遺傳されるといふことです。王は、此不思議な德の外に、豫言の通力をも授つてをられる。つまり、種々な天福が王位を圍繞して、天祐の豐かな君だといふことを宣言してゐる。

ロッス　出て來る。

マクダ　あれへ誰やら參りました。

マルコ　國の者だが、知らない男のやうだ。

マクダ　（迎へて）おゝ、君でしたか、まゝようこそ。

マルコ　あゝ、やつと分つた。……（迎へて）神よ、願はくは吾々共を疎隔する所以のものを取除かせたまへ！

ロッス　御同樣に祈りまする。

マクダ　スコットランドの有樣は相變らずですか？

ロッス　あゝ情ない國！　おのれの眞の狀態を敢て知ることを恐れる程の有樣！墓地とは呼ばうとも、母國とは呼びかねまする。苟くも物心を知る以上は、かりにも笑ふといふことのない國です。歎息や伸き聲や空氣を突裂くけたゝましい叫び聲が聞えても、今は氣に掛ける者もない。今では如何な激しい悲みも、平凡な狂態と見えます。今は葬式の鐘を鳴らしても、だれが死んだと言つて訊ねる者もない。强健な者が、帽子に挿した花よりも早

く凋落します、病氣にもならんで死にます。

マクダ　あゝ餘り微細過ぎるやうだが、事實には相違ない！

マルコ　最近には如何な慘い事がありました？

ロッス　一時間前の慘い事なんぞを話すと嘲弄されまする、毎分時に何か新しい慘い事が起りますので。

マクダ　妻は如何してゐます？

ロッス　さア、御無事です。

マクダ　それから子供らは？

ロッス　同じくです。

マクダ　暴君は、彼等の平安を打毀すやうなことをしやしませんでしたか？

ロッス　いゝえ。　みんな平安にしておいでゝした、お別れした時分には。

マクダ　語をお客みなさるな。　え、如何な模樣です？

ロッス　私が、悲しい報道を齎して、此方へ參らうとする際、健氣な人々が義兵を起したといふ噂を聞きましたが、途中で暴君の軍勢が出陣するのを目擊しましたから、いよ〳〵以て其噂の實であることを信ずるに至りました。（マルコムに）今が拯ふべき時機でございます。　貴下がスコットランドへお顏をお見せになれば、兵士は忽ち出來ます、女と雖も戰ひます、塗炭の苦みをまぬかれたいために。

マルコ　國の者共も喜ぶが可い、もう已に出陣してゐる。　任俠な英國王は、予にシワード將軍と一萬人の兵士とを借してくれられた。　將軍は、基督敎國に又とない老功の武人なんだ。

ロッス　あゝ其喜ばしいお知らせに報ゆるに足るお知らせが出來たらなア！　わたしの持つて來たお知らせは、荒地か何かで、人の聞いてゐない處で、吠えてこそ相應なことです

マクダ　何に關した事です？　一般に關したことですか？　又は或一個人の私有に屬する悲みですか？

ロッス　苟くも正人義士たる者は傷まざるを得ないことです。けれども主として君に關してゐる。

マクダ　わたしに關する事なら、とりおきにしないで、直知らせて下さい。

ロッス　どうぞわたしの舌を永久に憎がつて下さるな、君の耳が曾て聞いたことのないやうな、辛い、情ないことを言ひますから。

マクダ　え！　わかつた。

ロッス　君の居城へ、敵の手の者が不意に寄せて、奥さんや子供衆も、無慚な最期をお遂げなされた。それを詳しく話すのは、其殺された鹿の死骸の山へ、君をも積重ねようとすると同様だ。

マルコ　何といふ情ないことだ！　（マクダッフに）これさ！　帽子で顔をお隠しなさるに及ばん。お泣きなさいく。口に出さない悲みは、心臓にばッかり囁くので、遂にはそれを傷めるやうになる。

マクダ　子供らも悉皆？

ロッス　奥さんも、子供衆も、家來たちも、居合はせた者殘らず。

マクダ　そこにゐて救ふことも出來なかつたか！……妻も殺されたのですか？

ロッス　さうです。

マルコ　ま、そんなにお歎きなさるな。其大悲歎を療治するために、どうか共同の大復讐といふ良藥を調合して下さい。

マクダ　（獨語のやうに）子の無い男だ。……（ロッスに）可愛い子供らも悉皆？　え、悉皆ですか？……おのれ、鬼鳶めが！……悉皆？　え、可愛い雛をも母鳥をも、只一攫に？

マルコ　男らしく引堪へなさい。

マクダ　引堪へませう。　けれども斯う感ずるのも亦た男の習ひです。　此上もなく大切な、あゝいふ物があつたことを思ひ出さずにはをられません。　天は、見てゐながら、助けてもくれなかつたのか？　罪の深いマクダフよ、汝の故で、彼等は悉皆殺されたんだ！　何といふ碌でなしだ予は？　あれらに罪があつてゞはなく、予の故で彼等が屠り殺されたのだ。　天よ、どうぞ彼等を安樂にしてやつて下さい！

マルコ　それをば君の劍の砥石になさい。　悲みを怒にお轉じなさい。　精神を鈍らせちやいけませんぞ、ます〳〵激勵なさい。

マクダ　目は女の役をしてゐて、さうして口では大言壯語することが出來りや調法だけれど！……いや、慈悲深き神々よ、距離をも時をも切縮めて、あのスコットランドの惡魔めとわたしとを相面せしめて下さい、此劍の達く處に彼奴を立たせて下さい。　それで若し免れゝば、天も彼れをお赦しなされ！

マルコ　それでこそ男らしい。……さア、王の許へ往かう。　出陣の準備は整つてゐる。　暇乞さへすれば可い。　マクベスは熟んだ果物だ、只一振すれば可い。神々が我々を勵して下さる。　能る限り心をお慰めなさい。　永久に明けないゝ思へばこそ夜が長いのである。

みな〳〵入る。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊
＊　＊

第五幕

第一場　ダンシネーン　城内の溜の間

醫師と一侍女と出で來る。

醫師　二晩徹夜して、御一しよにお見張をしましたが、おつしやつたやうなことは無いぢやありませんか？　最近にお歩きなすつたのは何日でした？

侍女　御前樣が御出陣遊ばした以後です。　お床をお離れになつて、夜のお召をお著しになつて、お戸棚の錠を開けて紙を出して、何やらお書になつて、それ

を讀んで、封じて、又お床へお歸りになりましたの。　けれども其間始終よツくお眠り遊ばしていらつしやるのでございましたの。

醫師　甚だしい惱亂狀態だ、熟睡中に覺醒同然の作用をするといふのは！　その、御睡眠中の興奮狀態で、お歩きになつたり、何か實際に遊ばしたりの外に、曾て何かお言ひになつたのをお聞きなすつたことはありませんか？

侍女　それはその、どうもおつしやいました通りには申し上げかねますので。

醫師　わたしにやおつしやつてもよろしいでせう。　おつしやるが當然です。

侍女　貴下にも、何人にも申されません、わたくしの申すことの實否を保證する人がございませんから。……

（此時マクベス夫人、睡遊病の體にて、夜の服のまゝ、燭を携へて出て來る。）

あれ、お出で遊ばしましたよ！　あゝいふ風なのでございます。　たしかに、よくお眠り遊ばしていらつしやるのです。　よう御覽遊ばせ。　靜となすつて。

醫師　どうしてあの燭火を手にお入れなすつたのだらう？

侍女　なアに、お傍にございましたのよ。　始終燭火をお傍にお置き遊ばします、さういふお言附なんでございます。

醫師　ごらんなさい、目は開いておいでゝすよ。

侍女　さやうです、けれどもお見えなさりはしません。

醫師　ありや何をなさるんでせう？　あ、お手を頻と擦つておいでなさる。

侍女　あれはお定りでございますの、あゝいふ風に手をお洗ひ遊ばして いらつしやるやうなのが。　物の十五分もあゝしていらつしやることがあります。

夫人　（獨語）まだこゝに汚點が附いてゐる。

醫師　あ！　何かお言ひなさる。　書留めておかう、しつかり記憶しておく必要上。